

U2-2025-

専門多肢

試験問題

注意事項

1. 問題は**60題(60ページ)**あります。受験する区分に応じ、次のとおり解答してください。
 - **矯正心理専門職区分**
問題は必須問題 20 題(No. 1 ~No.20)と選択問題 40 題(No.21 ~No.60)に分かれています。選択問題については**任意の 20 題**を選択の上、必須問題と合計して**40 題**を解答してください。
なお、選択問題については、20 題を超えて解答しても超えた分については採点されません。
 - **法務教官区分、保護観察官区分**
No.21~No.60 の全ての問題(**40 題**)を解答してください。
No. 1~No.20 の問題には解答しないでください。
2. 解答時間は**2 時間 20 分**です。
3. この問題集は、本試験種目終了後に持ち帰りができます。
4. 本試験種目の途中で退室する場合は、退室時の問題集の持ち帰りはできませんが、希望する方には後ほど渡します。別途試験官の指示に従ってください。なお、試験時間中に、この問題集を切り取ったり、転記したりしないでください。
5. 下欄に受験番号等を記入してください。

第1次試験地	試験の区分	受験番号	氏名
--------	-------	------	----

指示があるまで中を開いてはいけません。

No. 1～No. 20

(矯正心理専門職区分)

No. 1～No. 20 は**必須問題**です。これらの問題について、**全てを解答**してください。

解答は、問題番号に該当する答案用紙の番号欄に記入してください。

(法務教官区分、保護観察官区分)

No. 1～No. 20 は矯正心理専門職区分の必須問題です。これらの問題については解答しないでください。

【No. 1】 次は、神経心理学に関する記述であるが、A～Dに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

神経心理学は、脳に損傷や疾患が生じた後の高次機能の状態を研究することで、脳と心の間関係を明らかにする研究領域である。神経心理学の発展においては、失語症の研究が重要な役割を担ってきた。例えば、 によって、発話は比較的良好だが理解に障害のある感覚失語が発表され、その後も様々な失語が発表された。失語症のうち、超皮質性運動失語と超皮質性感覚失語の特徴としては、 が比較的良好であることが挙げられる。

脳損傷の結果として、注意障害がみられることがある。注意障害は、大きく空間性(方向性)注意の障害と全般性注意の障害に分けることができる。空間性(方向性)注意の障害の例としては、脳の入 の損傷による左半側空間無視がある。全般性注意の障害の例としては、複数の刺激に同時に注意を向ける配分性注意の障害などがある。

脳損傷による高次脳機能障害へのリハビリテーションを認知リハビリテーションと呼ぶ。認知リハビリテーションには、障害された機能そのものを訓練する直接訓練と障害された機能を他の手段で補うことを目指す代償手段の獲得などがある。重度の記憶障害に対する直接訓練では、 が有効とされる。

	A	B	C	D
1.	C. ウェルニッケ	復唱	右半球	エラーレス学習
2.	C. ウェルニッケ	復唱	左半球	拮抗条件づけ
3.	C. ウェルニッケ	呼称	右半球	拮抗条件づけ
4.	P. ブローカ	復唱	右半球	拮抗条件づけ
5.	P. ブローカ	呼称	左半球	エラーレス学習

【No. 2】 思考に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 概念に関する代表的な理論として、定義的特性理論、プロトタイプ理論、説明ベースの概念理論がある。定義的特性理論における概念は、カテゴリーの事例に共通する説明原理によって定義される。プロトタイプ理論では、事例が、ある概念カテゴリーの満たすべき必要十分な条件を満たしている場合にのみ、それが当該概念のメンバーであると同定され、概念カテゴリーの間には明確な境界がある。説明ベースの概念理論では、カテゴリーは家族的類似性に従って構造化されている。
2. 人が問題解決を行う際の方略は、ヒューリスティックスとアルゴリズムの二つに分類することができる。ヒューリスティックスは、正しく適用すれば必ず正しい結果が得られる一連の手続のことである。一方、アルゴリズムは、しばしば経験から導かれるものであり、必ず正しい結果に至ることは保証されていないが、適用が簡単な手続を指す。ヒューリスティックスが利用されやすいのは、領域知識が不足している、情報が不足している、時間圧力がある、問題の重要性が高い等の場合である。
3. A. S. ルーチンスが提唱した機能的固着とは、先行経験、特に成功した経験によって問題に対する一定の方向付けが形成されると、柔軟な思考が妨げられ、以前に使った方法を機械的に適用してしまう現象である。機能的固着を示した実験で K. ドンカーが用いた水差し問題では、参加者は、容量の異なる三つの水差しを利用して指定された量の水を汲むことが求められる。この問題を用いた実験の結果、参加者は、最初にある方法で正解を得ると、後の問題でもそれまでの解き方に固着し、新しい簡単な解決法に気付かないことが示された。
4. 確証バイアスとは、自分の立てた仮説を反証することよりも確証することの方を好む傾向を指す。確証バイアスを示した実験で P. C. ウェイソンが用いた 2-4-6 課題では、246 や 357 のような数列について、どのような規則に従っているかを見付けることが参加者に求められる。参加者は、正解の規則を見付けるために、数列を生成して実験者に提示し、実験者はその数列が規則に従っているか否かを答える。この課題を用いた実験の結果、多くの参加者が、自分の仮説を支持する数列ばかりを提示し、仮説を支持しない数列は提示しないという傾向を示した。
5. プライミング効果とは、言語的な表現の仕方を変化させることによって、社会的判断や意思決定の結果が異なる現象である。プライミング効果を示した実験では、参加者を二群に分け、意思決定問題について、生存を強調したポジティブ条件と、同じ意思決定問題であるが、死亡の側面から表現したネガティブ条件で選択肢を提示した。その結果、利得の側面が強調されたポジティブ条件では大半の人がリスク志向的な選択をするが、損失の側面が強調されたネガティブ条件では大半の人がリスク回避的な選択をすることが示された。

【No. 3】 認知や注意に関する記述A～Dのうち、妥当なもののみを全て挙げているのはどれか。

- A. フランカー効果とは、パーティー会場のような雑音の中でも、自分の名前や興味のある話題に関する会話を聞き取ることができるような現象のことで、注意の初期選択説を支持する知見の一つである。初期選択説とは、入力された全ての刺激の意味的分析の後に情報の選択が起こると考える立場であり、代表的な実験手法として両耳分離聴課題がある。
- B. ストループ効果とは、色情報が文字の意味情報の認知を邪魔する現象のことであり、例えば、青色のインクで書かれた「赤」という文字の文字情報を答えるとき、赤色のインクで書かれた「赤」という文字の色情報を答えるよりも反応が遅れることである。反対に、サッカード抑制とは、文字の意味情報が色情報の認知を邪魔する現象のことである。
- C. 特定の対象への注意を持ち続けることを選択的注意といい、選択的注意を測定するために、特に覚醒状態の維持を検討する課題としてモニタリング課題がある。モニタリングは、例えば、一定の時間にわたってレーダーに映る機影(航空機の姿)を探し続けるような作業の基盤となる機能であり、産業心理学の重要なテーマとされている。
- D. 視覚的探索の注意制御には、ボトムアップ制御とトップダウン制御の過程が関わっている。ボトムアップ制御の注意は、その時の意図とは関係なく、刺激の特性のみによって喚起される注意であり、トップダウン制御の注意は、今現在の刺激の特性だけによらず、予測や課題要求によって喚起される注意である。

1. C
2. D
3. A、B
4. A、C
5. B、D

【No. 4】 ポジティブ心理学に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. P. エクマンの基本感情説は、幸せ、喜び、驚き、悲しみ、嫌悪、怒りの六つから構成されている。これらのうち、幸せ、喜び、驚きの三つは、ポジティブ感情とみなすことができる。エクマンらの表情研究では、ポジティブ感情である幸せは文化によって一致率が低いという結果が示されており、その後の感情の文化差研究につながった。
2. ポジティブ心理学は、アメリカ心理学会の会長であった C. R. ロジャーズによって提唱された研究領域である。ポジティブ心理学では、それまでの心理学が人間のネガティブな側面に焦点を当てた学問であったという反省から、人間のポジティブな側面を研究する。ロジャーズは、1998 年から始まったポジティブ心理学運動の流れの中で、人間は自己実現を求める傾向があると提唱した。
3. B. L. フレデリクソンは、ポジティブ感情の機能として拡張と形成があることを指摘し、拡張－形成理論を提唱した。拡張機能は、ポジティブ感情によって個人の思考－行動のレパートリーが一時的に広がることである。形成機能は、拡張後に身体的、知的、社会的な意味での個人資源が継続的に形成されることである。
4. M. チクセントミハイは、ポジティブ感情の元戻り効果を明らかにした。ポジティブ感情そのものは心臓血管系に影響を与えることはないが、元戻り効果は、ネガティブ感情が生起した後にポジティブ感情が生起すると、ネガティブ感情によって引き起こされた心臓血管系の反応が素早く元通りに戻る現象である。この元戻り効果を基にして、チクセントミハイはフロー理論を提唱した。
5. D. J. レヴィンソンは、ライフスタイル変容の上方スパイラルモデルを提唱した。この理論では、健康行動をすることでポジティブ感情が体験され、その結果、ポジティブ刺激に気付きやすくなり、更に健康行動を増進させるというらせんの上昇を仮定している。上方スパイラルモデルは、レヴィンソンの成人期以降の発達論と対応付けられている。

【No. 5】 パーソナリティの社会認知的理論に関する記述ア～エのうち、妥当なもののみを全て挙げているのはどれか。

ア. G. A. ケリーは、パーソナル・コンストラクト理論を提唱し、人間が環境を認知する際に、情報を受動的に受け取るのではなく、何らかの仮説を立てた上で、検証するというプロセスを想定した。そして、人が対象や環境を認知的に表象する仮説的な概念をパーソナル・コンストラクトと呼んだ。コンストラクトは個人によって異なるため、同じ事象に遭遇しても、その解釈や行動の予測は異なる。

イ. パーソナル・コンストラクトの測定には、役割構成レパトリートテスト(レプテスト)が用いられる。レプテストは、複雑で幾何学的な図形に隠されている単純な図形を見付け出す課題である。これにより、単純な図形と複雑な図形の両者の役割を把握した上で、コンストラクトを切り替えるというコンストラクトの代替性を測定できる。

ウ. J. B. ロッターは、コンストラクトの複雑さに注目し、認知的複雑性という指標を数量的に算出する方法を考案した。人や事物に対して、同じコンストラクトを用いる単純型の人もいれば、複数のコンストラクトを用いる複雑型の人もいる。認知的複雑性が低い方が、複数のコンストラクトによる混乱が生じにくく、他者の行動の予測が適切にできるとされる。

エ. W. ミシェルは、人間－状況論争において、パーソナリティの前提である、異なる状況における行動の一貫性に疑問を呈した。ミシェルは、人は状況による影響を受けるが、状況と行動の組合せのパターンには安定性がみられると考えた。これを踏まえて、ミシェルと Y. ショウダは、認知的・感情的パーソナリティシステムを提唱した。

1. ア
2. ウ
3. ア、エ
4. イ、ウ
5. イ、エ

【No. 6】 知能に関する記述ア～エのうち、妥当なもののみを全て挙げているのはどれか。

- ア. F. ゴールトンは、知能の二因子説を提唱し、知能は全ての知的活動に共通に働く一般因子(g 因子)と、相互に独立し、個々の知的活動のみに特有な特殊因子(s 因子)から成っているとした。一方、L. L. サーストンは、特殊因子の存在を否定し、数、言語、語の流暢さ、記憶、推理、空間、知覚という7 因子から成る多因子説を唱えた。
- イ. R. J. スタンバーグは、知能の鼎立理論を提唱した。この理論は、コンポーネント理論、経験理論、文脈理論の三本柱から成る階層的理論体系である。三つの理論のうち、経験理論は、新しい状況や課題に対処する能力に関する理論と、情報処理を自動化する能力に関する理論に分かれる。
- ウ. H. ガードナーの多重知能理論では、空間的知能、音楽的知能、身体・運動的知能など、相互に関連した7 種の知能があり、これらの知能は、それぞれの相互作用によって発達し、機能する(モジュール性がない)と仮定する。この理論の特徴として、芸術・表現領域の知能及び自己と他者の理解という対人的知能を含めている一方、論理・数学的知能は含めていないことが挙げられる。
- エ. J. P. ギルフォードの知性の構造モデルは、操作、所産、内容の三つの次元から構成される。操作の次元には、収束的思考と拡散的思考が含まれており、収束的思考は、与えられた課題のただ一つの正解に到達しようとする際に働く思考である。他方、拡散的思考は、正解が一つとは限らない課題に対し、多方面に思考を広げていく場合に必要となる。

1. ア
2. エ
3. ア、ウ
4. イ、ウ
5. イ、エ

【No. 7】 パーソナリティの研究にまつわる人物とその説明に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 【人物】テオプラストス

【説明】アリストテレスの下で学んだ古代ギリシャの哲学者であり、同じような状況に置かれても、人によって行動に差異があることに注目した。彼の著書『エチコイ・カラクテス』（邦題『人さまざま』）は、人の性格について記した現存する最古の書物の一つとされており、空とぼけ、臆病、うわさ好き、恥知らず、頓馬などの多くの人々にみられる性質について、簡単な定義を与えた上で、その人物像や具体的な言動を描写している。

2. 【人物】エンペドクレス

【説明】古代ギリシャの医師であり、「血液の多い多血質は、陽気」、「粘液の多い粘液質は、淡泊」のように体液と気質を結び付けた「四気質説」を唱えた。彼の理論は、ガレノスが提唱した、「人間には血液、粘液、黒胆汁、黄胆汁の4種類の体液があり、それぞれが調和していると健康であるが、それらの混合のバランスが崩れると病気になる」という「四体液説」が基になっている。

3. 【人物】R. B. キャッテル

【説明】『パーソナリティ—その心理学的解釈』を著し、パーソナリティ心理学を初めて体系化した。パーソナリティを「特性」という要素に分解して把握することを試み、辞書から人間の態度や行動の特徴を表す用語を収集し、多くの人に共通する「共通特性」と個人に特徴的な「独自特性」に分類した。また、共通特性のプロフィールを描く「心誌(サイコグラフ)」を考案し、研究の集大成として、モーズレイ性格検査(MPI)を作成した。

4. 【人物】E. クレッチマー

【説明】『心理学的類型』を著し、精神科医師として多くの精神病患者と接する中で、体格と精神病の間に密接な関係があることを見だし、体格を特定の精神障害や心理的・行動的特徴と関連付ける研究を発展させた。彼は、体格を細長型、肥満型、闘士型の三つに分けた上、内臓緊張型、身体緊張型、頭脳緊張型の三つの性格類型との関係を示した。

5. 【人物】S.フロイト

【説明】心の機能をエス、自我、超自我の三つの側面に分け、それら相互の力関係によって、人間の心理や行動を説明しようとした。人格の無意識的な部分であり、快楽原則に従って欲求のエネルギーとなる「超自我」が強いと、衝動的・感情的な行動が生じやすくなるため、「自我」が絶えず批判的に監視し、良心や道徳心の機能によってブレーキをかけるとした。

【No. 8】 子どもの発達に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. M. S. マーラーは、母親と子どもの相互作用の詳細な観察を通して、乳幼児が、母親への依存状態から個を確立していくまでの段階を示した分離－個体化理論を提唱し、その中で、生後5か月頃から2歳頃までを分離－個体化過程と呼んだ。この分離－個体化過程には4段階あり、その初期段階である「正常な共生期」は、生後5か月から9か月頃までであり、母親と自分とは違う存在と自覚するとともに、母と母でないものを識別していき、「人見知り不安」を示し始める。
2. R. J. ハヴィガーストは、アイデンティティの達成状態について、危機の経験及び職業とイデオロギーへの積極的な傾倒の有無の観点から、アイデンティティ達成、モラトリアム、フォアクロージャー(早期完了)、アイデンティティ拡散の四つの類型を提案した。そのうち、アイデンティティ拡散は、イデオロギーに積極的に傾倒しているものの、過去に経験した危機を現在も克服できずにいる状態である。
3. M. クラインは、子どもの遊びを自由連想と捉え、子どもにおいても転移が生じるとし、遊戯療法の発展に大きく貢献した。また、発達の早期段階において認められる分裂や投影性同一視などを原始的防衛機制とし、乳幼児は、良い対象と悪い対象が分裂した妄想分裂態勢から、両面を含む抑うつ態勢へ発達すると唱えた。
4. J. ボウルビィは、幼い子どもが肌身離さずに持っている毛布やぬいぐるみのことを、移行対象と名付けた。移行対象は、子どもの内的主観的世界と外的客観的世界の橋渡しや移行を支える。そして、外的現実を客観的に受け入れ、自らが決して全能ではないことを認識することを「脱中心化」の過程と呼び、そのためには「ほどよい母親」が必要であるとした。
5. E. H. エリクソンは、人間の成長を、生涯にわたり繰り返し葛藤を乗り越えていくものであるという観点から捉え、その葛藤を心理社会的危機と呼んだ。そして、乳児期から老年期まで八つの発達段階を想定し、各段階において解決しなければならない発達課題及び危機について、例えば、学童期は自主性及び罪悪感、青年期は親密性及び孤独とした。

【No. 9】 M. B. パーテンは、保育所での行動観察を通じて、乳幼児の他者との関わり方と遊びの発達的变化について分析し、社会的参加(social participation)の観点から、遊びの形態を「遊びに専念していない行動」、「一人遊び」、「傍観的行動」、「平行遊び」、「連合遊び」、「協同遊び」の六つに分類した。

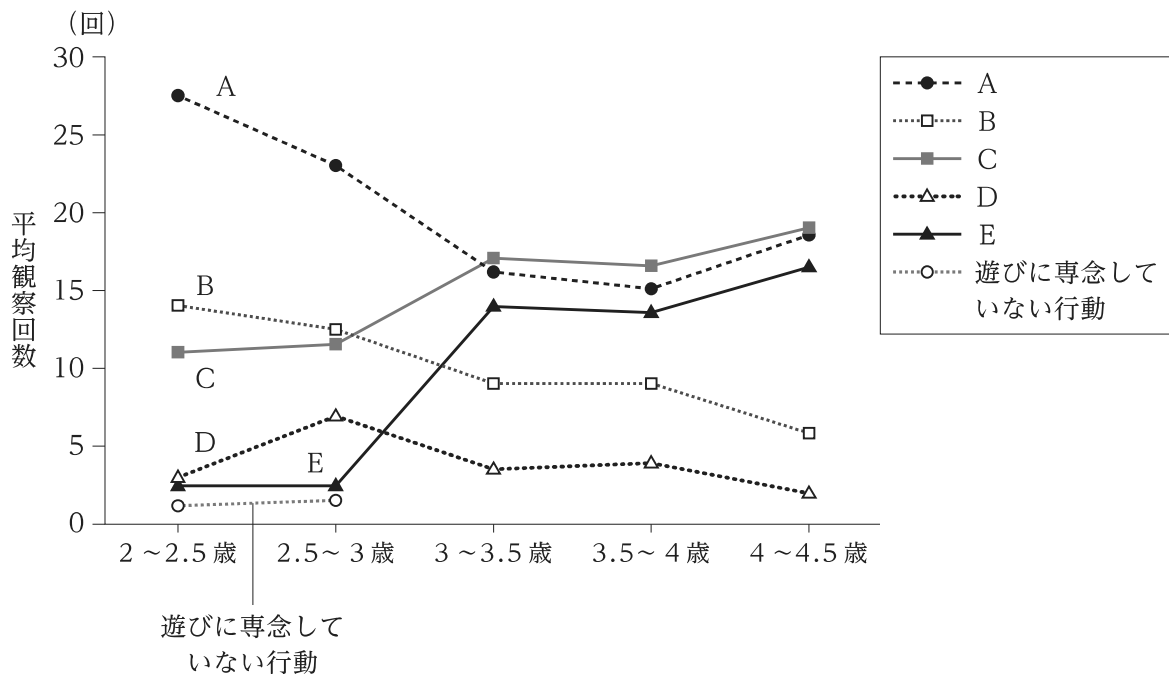
以下の〈遊びの形態〉は、六つの分類のうち、「平行遊び」と「連合遊び」の特徴を示している。また、〈グラフ〉は、パーテンの研究成果を基に作成したものであり、各年齢段階別にそれぞれ六人の子どもを対象として、保育所での自由遊びの観察を通して、六つの遊びの形態が観察された平均回数を示している。

〈グラフ〉内のA～Eのうち、「平行遊び」と「連合遊び」に当たるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

〈遊びの形態〉

- ・ 平行遊び：近くにいる他の子どもと同じ遊びをしているが、その子どもとのやり取りはみられず、自分の遊びに没頭している状態。
- ・ 連合遊び：他の子どもと関わり合いながら遊んでいる状態。物の貸し借りや会話はみられるが、はっきりとした役割分担はみられない。

〈グラフ〉社会的参加と年齢



* 「遊びに専念していない行動」は、3歳以降みられなくなるため、グラフが途中で切れている。

* 対象者1名につき計60回の観察を分析対象としている。

	平行遊び	連合遊び
1.	A	C
2.	A	E
3.	B	C
4.	B	D
5.	D	E


【No. 10】 成人期と老年期の発達や適応に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 老年期における記憶の機能は、記憶の種類によって変化の様相が異なる。最も加齢の影響を受けやすいのが意味記憶や手続き記憶である。それに対して、ワーキングメモリ(作動記憶)やエピソード記憶は加齢の影響を受けにくい。例えば、過去に身に付けた知識及び楽器の演奏や自転車の乗り方の技能などのエピソード記憶については、年齢によらず維持される。
2. 知能は、加齢によって一様に低下するというよりは、知能の特徴によって加齢の影響を受ける程度が異なると考えられている。結晶性知能とは、新しいことを学習したり、新しい環境に適応したりする能力であり、流動性知能とは、教育や文化的背景に大きく依存する知識・経験に基づく能力である。結晶性知能は流動性知能に比べ、加齢に伴い低下しやすい。
3. 年代別の集団の特性による影響をコホート効果という。年代によって教育歴や職業歴等が異なるといった文化差があり、この違いが知能検査の得点に影響すると考えられており、高齢者の能力は、実際よりも高く見積もられやすい。そのため、高齢者の能力を見る際にはコホート効果の影響を考慮する必要がある。横断的に同時代の様々な人を比べる研究では、同じ人たちを縦断的に追跡していく研究よりも、コホート効果の影響を抑えることができる。
4. 老年期の適応を説明する理論の一つとして、補償を伴う選択的最適化理論(SOC理論)がある。この理論では、老年期の発達においては、個人がそれぞれのやり方で喪失したものを補償し、獲得できるものを選択して最適化(適応)することが、サクセスフルエイジングにつながると考えられている。
5. 老年期の人間関係の在り方を説明する理論として、社会情動的選択理論がある。老年期では、肯定的感情を強める情緒的調整が社会的相互作用の最大の目的となる。そのため、老年期では、限られた資源の中で、相互作用を増やして社会的な関係を拡大する必要が生じ、結果として、情緒的に親しい家族や友人ではなく、新しい人間関係を求めるようになると考えられている。

【No. 11】 リーダーシップに関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 初期のリーダーシップ研究では、カエサルやナポレオンなど、歴史的指導者に共通する特性を明らかにする、特性論的アプローチが主流であった。R. M. ストッディルは、リーダーの特性についての研究をレビューし、過去の偉人は、①能力、②自信、③自己価値、④支配欲、⑤地位の五つの点で他のメンバーより優れているとした。当時の特性論的アプローチでは、おおむね一貫して、「能力の高さ」と「自信の強さ」がリーダーに不可欠であるという研究結果が示されていた。
2. K. レヴィンは、リーダーの特性や能力ではなく、専制型、放任型、民主型という三つのリーダーシップスタイルを提唱した。これを受けて R. K. ホワイトと R. リピットが行った、大学生のリーダーが小学生集団のお面作りを指導する実験研究では、専制型は、課題の遂行量が多いが、集団の満足度が低く、放任型では、課題の遂行量は少ないが、集団の満足度が高いことが分かった。また、民主型は、課題の遂行量、集団の満足度のいずれも中程度であり、効果的なスタイルとはいえなかった。
3. 三隅二不二は、リーダーシップをその機能の観点から、課題達成を志向する P 機能と人間関係志向的な M 機能に分類し、両機能が高い PM 型の行動スタイルが最も理想的とした。彼の理論における Pm 型と pM 型を比較すると、短期的な目標達成では pM 型が、長期的には Pm 型が効果的とされる。また、R. R. ブレイクと J. S. ムートンは、管理者の行動について「業績に対する関心」と「人間関係に対する関心」の 2 次元で捉えるマネジリアル・グリッドを提唱し、「業績に対する関心」が低く、「人間関係に対する関心」が高い「1・9 型」が最も理想的であるとした。
4. F. E. フィードラーのパス・ゴール理論では、リーダーのタイプを測定するために、リーダーに「過去に一緒に働いた中で最も苦手な人」を想定してもらい、その人を肯定的に評価する程度を LPC 得点とする。LPC 得点の高得点者を「人間関係志向」タイプのリーダー、低得点者を「課題達成志向」タイプのリーダーとし、リーダーの特性と集団状況の組合せによって、効果的なリーダーのタイプが異なるとした。集団状況がリーダーに中程度に有利な状況では、「課題達成志向」タイプのリーダーが効果的とされる。
5. P. ハーシーと K. H. ブランチャードは、リーダーシップのライフサイクル理論を提唱した。この理論では、「能力や知識」と「態度や意欲」の観点から、メンバーの成熟度を 4 段階に区分し、成熟度が高くなるにつれ、効果的なリーダー行動も、「教示的」→「説得的」→「参加的」→「委譲的」と変化していくとする。成熟度が最も低い段階において効果的とされる教示的リーダーシップは、リーダーの指示的行動(課題志向)は高いが、協働的行動(関係志向)の低いスタイルである。

【No. 12】 次は、自己意識に関する記述であるが、A～Dに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

ただし、文頭の大文字と小文字は区別しないものとし、 については設問の都合上伏せてある。

著作権の関係のため、掲載できません。

著作権の関係のため、掲載できません。

A	B	C	D
1. outgroup	self-awareness	personal	social
2. outgroup	deindividuation	public	personal
3. outgroup	deindividuation	social	personal
4. environment	self-awareness	public	private
5. environment	self-awareness	private	social

【No. 13】 発達検査等に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 成人・青年を対象とした AQ(自閉症スペクトラム指数)は、自閉症的傾向の個人差を測定することを目的とした検査であり、自閉スペクトラム症のスクリーニングツールとしても活用されている。評定方法は、社会的スキル、注意の切替え、細部への注意、コミュニケーション、想像力の五つの下位尺度の各質問について、家族や周囲の他者が回答する他者評定式であり、知的障害のある者にも使用することができる。
2. 日本版 KABC-II は、A. カウフマンによって開発された K-ABC の改訂第 2 版である。対象年齢は 2 歳 6 か月から 12 歳 11 か月であり、認知尺度と習得尺度によって構成される。7 領域の知能を測定し、その得意、不得意を検討するカウフマンモデルと、認知と習得のバランスをみる CHC モデルの二つの理論的枠組みが用意されており、検査者は、受験者の特性が適切に反映されると思われるモデルを選んで解釈する。
3. 発達検査は、主に乳幼児の発達の状態を調べる検査の総称であり、全般的な発達水準だけでなく、精神面と身体面の発達を分析的に評価するものである。発達検査の実施方法は大きく 2 種類あり、日本で最初に作られた発達検査である津守・稲毛式乳幼児精神発達診断法のように、子どもに一定の課題を与えてその行動を直接観察する方法と、日本版ベイリーⅢ乳幼児発達検査のように、一定の項目について養育者や保護者に問診する方法がある。
4. ADOS-2 は、ADHD の診断・評価に特化した検査で、診断補助としてよく用いられている。対象は成人期以降の ADHD の疑いのある者で、ADHD の診断基準に準拠した質問項目について、対象者本人が回答する。また、行動観察の結果を数量的に段階評定し、最終的に判定アルゴリズムを用いることで、「注意欠如多動症」、「混合型」、「不注意優勢型」、「多動性・衝動性優勢型」、「非 ADHD」のいずれかに分類することができる。
5. 日本版 Vineland-II 適応行動尺度は、「コミュニケーション領域」、「日常生活スキル領域」、「社会性領域」、「運動スキル領域」、「不適応行動領域」の五つの領域で構成され、対象は 0 ～ 92 歳で、評価対象者の日常をよく知っている成人に半構造化面接を行い、評定する点が特徴的である。現代社会への適応行動について評価するものであり、支援計画の作成等に利用することが可能である。

【No. 14】 心理測定尺度の妥当性や信頼性に関する記述A～Dのうち、妥当なもののみを全て挙げているのはどれか。

- A. 内容的妥当性とは、ある心理測定尺度の妥当性を検討するために、その心理測定尺度の下位尺度間の関連を理論的に予測し、実際にデータを収集して、予測どおりの関連がみられるかどうかを検討することによって示されるものである。関連を理論的に予測する際に、関連があるという視点を設定する場合を弁別的妥当性といい、関連がないという視点を設定する場合を収束的妥当性という。
- B. 基準関連妥当性とは、ある心理測定尺度が測定しようとしている心理的特徴を示す他の指標を外的基準とし、外的基準との因果関係が必要条件とされる。外的基準を同時期の調査や診断から得た場合には予測的妥当性といい、外的基準が調査実施の後に存在する場合には併存的妥当性という。
- C. 構成概念妥当性とは、ある心理測定尺度が測定しているものを過不足なく捉えることができているかどうかを示すものである。心理測定尺度の内容を専門家が理論的に考察した上で、質問項目が測定したい心理的特徴を明確に捉えているかどうかをクロンバックの α 係数を用いて検討するなどして、妥当性があるかを判断する。
- D. 心理測定尺度の信頼性とは、繰り返し測定を行っても同じ値を示すような精度の高さを示すものであり、安定性と一貫性の二つの側面がある。安定性の検討方法には、同一対象者に複数回調査を実施し、得られたデータ間の関連の強さを検討する再テスト法がある。一貫性の検討方法には、ある心理的特徴を測定する心理測定尺度の項目を均等になるよう二つに分け、それぞれ別に得点を算出し、2得点の関連の強さを検討する折半法がある。

1. A
2. D
3. A、B
4. B、C
5. C、D

【No. 15】 心理療法の効果や有害事象に関する記述A～Dのうち、妥当なもののみを全て挙げているのはどれか。

- A. 心理療法のエビデンスの強弱の判断においては、どのような研究デザインを用いているのかを検討する必要がある。一般的に、無作為化比較試験の方が、前向きコホート研究よりも強いエビデンスを提供するとされる。これは、無作為化比較試験では、前向きコホート研究で生じる可能性のある未測定の交絡を無作為割付によって調整できるためである。
- B. 無作為化比較試験を包括的に収集し、データ抽出した上で実施したメタ分析結果は、強いエビデンスとなる。系統的展望を用いて世界中からエビデンスを収集する取組としては、CONSORT 声明がある。ただし、系統的展望に含める無作為化比較試験において、仮説に対して否定的な結果ばかりが注目され、公表されやすくなるという出版バイアスが生じることがあり、注意が必要である。
- C. アメリカ心理学会の第 12 部会では、エビデンスに基づいた心理療法の普及のために、EST (empirically supported treatment) を公表した。EST は症状改善の効果量の大きさに基づいて心理療法をリスト化している。さらに、2005 年には、エビデンスに基づく心理学的実践として、EST のリストに挙げられている心理療法のみを実施することを推奨した。
- D. 心理療法における有害事象の例としては、緊急事態ストレスデブリーフィングがある。緊急事態ストレスデブリーフィングでは、災害直後に 1 セッションのグループ介入(認知再構成と心理教育)を行う。緊急事態ストレスデブリーフィングは、長期的には PTSD 症状を高めるといった有害事象が生じることが報告されている。

- 1. A
- 2. C
- 3. A、D
- 4. B、C
- 5. B、D

【No. 16】 次は、ある心理療法に関する記述であるが、A～Dに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

□ A □ とは、催眠をかけられた時と同じ状態になるように合理的に組み立てられている生理学的訓練法である。O. フォークトは、睡眠と催眠との関係についての神経病理学的研究において、催眠状態そのものに心身の健康を促進する治療的効果があるということを見出した。これを受けて、□ B □ は、自己弛緩をもたらすための、身体的感覚を中心とした一連の自己暗示を段階的に組み立てた練習法として □ A □ を開発した。この心理療法は、心筋梗塞患者、低血糖発作のある人、糖尿病患者で身体症状の監視が困難な状況にある人、統合失調症の陽性反応のみられる患者などへの適用は禁忌とされている。

標準的な実施方法は、椅子座位又は仰臥位で、目を閉じて、ゆったりとした姿勢をとり、「□ C □」という暗示文を頭の中で無心に繰り返す。その後、「両腕・両脚が重い」、「両腕・両脚が温かい」、「心臓が静かに規則正しく打っている」、「楽に息をしている」、「おなかの温かい」、「額が心地良く涼しい」という六つの標準練習によって、心身の弛緩状態を作り出す。暗示文に示された身体部位に積極的に注意を向けて変化を起こさせるのではなく、暗示文を唱えることに専念し、受容的なさりげない注意を向けることによって身体部位の変化に気付く、□ D □ という心の状態を作ることが重要である。

A	B	C	D
1. 自律訓練法	J. H. シュルツ	全身の力が抜けている	マインドフルネス
2. 自律訓練法	J. H. シュルツ	気持ちが落ち着いている	受動的注意集中
3. 自律訓練法	E. ジェイコブソン	気持ちが落ち着いている	マインドフルネス
4. 漸進的筋弛緩法	J. H. シュルツ	全身の力が抜けている	マインドフルネス
5. 漸進的筋弛緩法	E. ジェイコブソン	全身の力が抜けている	受動的注意集中

【No. 17】 DSM-5-TR(精神疾患の診断・統計マニュアル)における神経発達症群に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 知的発達症は、発達期に発症し、概念的、社会的および実用的な領域における知的機能と適応機能両面の欠陥を含む障害である。知的発達症の診断は、臨床的評価および個別化、標準化された知的機能検査によって行われる。重症度のレベルは、境界域、軽度、中等度、重度の4つであり、必要とされる支援のレベルを決めるのは知的機能であるため、各重症度に対応するIQの値が定義されている。
2. チック症群は、神経発達症群の中のコミュニケーション症群に含まれる。チックとは、突発的、急速、反復性、非律動性の運動または発声である。その持続期間、想定される病因および臨床所見により、診断される特定のチック症が定義される。そのうち、トゥレット症は、成人期に発症し、少なくとも1年以上続いた複数の運動チックまたは1つ以上の音声チックが存在し、それらの症状が拡大縮小を繰り返す経過をたどる場合に診断される。
3. 注意欠如多動症の診断基準では、多動-衝動性の症状として、「しばしば指示に従えず、学業、用事、職場での義務をやり遂げることができない」、「しばしば他人を妨害し、邪魔する」などが挙げられている。また、注意欠如多動症は女性に多いが、注意欠如多動症の女性については、反抗挑発症、自閉スペクトラム症、パーソナリティ症および物質使用症など多くの併存症をもつ率は低い。
4. 限局性学習症の特徴として、単語を正確かつ流暢に読むこと、読解力、書字表出および綴字、算数の計算、数学的推理といった基本となる学業的技能を学習することの持続的な困難さが挙げられる。限局性学習症は、正規の教育が開始された後のみ診断が可能となるが、その始まりが正規の学校教育の期間中(すなわち、発達期)だという証拠があれば、児童期、思春期、または成人期以降のいずれの時点においても診断は可能である。
5. 児童期発症流暢症(吃音)は、神経発達症群の中の運動症群に含まれる。会話の正常な流暢さや発話の運動産出の障害であり、発達期早期に症状が始まる。障害の程度は状況に応じて変わることはなく、非流暢性は、コミュニケーションをするために心理的圧力がかかるような場面だけではなく、音読、歌唱、動物や生命のない物体に話しかける場面であっても起こることが多い。

【No. 18】 次は、向精神薬に関する記述であるが、A～Dに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

向精神薬には、抗うつ薬、抗不安薬、抗精神病薬、気分安定薬、精神刺激薬などがある。

抗うつ薬は、主にモノアミンのトランスポーターの再取り込み阻害によって効果が発現するとされる。これは、モノアミンであるセロトニン、ドーパミン、などの活性が低下することによって、うつ病の症状が出現するというモノアミン仮説に基づいている。

抗不安薬は、エチゾラム、アルプラゾラム等、そのほとんどが受容体作動薬であり、大脳辺縁系の神経活動を抑制する作用をもつが、それなしに過ごせなくなる「依存」が形成されやすいといった特徴がある。

抗精神病薬としては、幻覚や妄想に関係するとされるドーパミン神経の中脳-辺縁系路のD₂受容体遮断効果のある定型抗精神病薬が用いられてきたが、首や上肢の筋肉のつっぱりや眼球上転を起こす急性ジストニア、舌や口唇、下顎の不随意運動や四肢の粗大な振戦を起こす遅発性ジスキネジアなどといったが出現する。そこで、このような副作用が比較的少ない非定型抗精神病薬が治療の中心に移り変わってきている。

気分安定薬は、主に双極症の気分安定化に用いられる。リチウムは、イノシトールリン脂質の代謝回転を通じて細胞内情報伝達系を変化させ、神経細胞の過剰興奮性を抑制する。

精神刺激薬は、ドーパミンなどの再取り込み阻害によって、中枢興奮作用や覚醒効果があり、日中に眠気のある過眠症やナルコレプシーなどの睡眠障害、の治療に用いられる。

A	B	C	D
1. ノルアドレナリン	ベンゾジアゼピン	抗コリン作用	自閉スペクトラム症
2. ノルアドレナリン	ベンゾジアゼピン	錐体外路症状	注意欠如多動症
3. ノルアドレナリン	セロトニン	錐体外路症状	自閉スペクトラム症
4. アセチルコリン	ベンゾジアゼピン	抗コリン作用	注意欠如多動症
5. アセチルコリン	セロトニン	抗コリン作用	自閉スペクトラム症

【No. 19】 実験法に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 実験状況における要求特性によって、参加者は、社会的に望ましい意見や行動ではなく、自分の本当の意見や行動を示そうとする。また、実験状況において実験者が抱く期待は、様々な形で参加者の行動に影響を及ぼす。この影響は第三者効果と呼ばれる。実験場面における「カバー・ストーリー」とは、実験者に目的や仮説を知らせないために使われるストーリーのことであり、これは第三者効果の影響を低減するために用いられる。
2. 無作為割当てが困難であり、元々剰余変数の統制が十分にできない場合に用いられる手法として準実験がある。複数の不等価な群に対して、事後テストを行う不等価群事後テスト計画は準実験の一つである。準実験は実験室実験に比べ、独立変数と従属変数の間にある因果関係の特定がより確実に検証できる一方で、生態学的妥当性が低いという問題点がある。
3. 剰余変数を統制する方法の一つとしてカウンターバランスがある。これは、個人差変数を条件間で対応させることで均等にする方法であり、個人差変数の影響が条件間で確率的に等しくなることを期待する方法である。例えば、対等化法や平均値等化法が用いられる。カウンターバランスの優れている点は、研究者が剰余変数として事前に想定していない個人差変数も含めて統制できることである。
4. 個人差変数を統制する方法の一つとして、参加者内計画がある。この計画では、実験条件それぞれに異なる参加者を割り当てることによって、個人差変数が剰余変数として働く可能性は少なくなる。ただし、条件の実施順序によって、前の試行から後の試行への影響という剰余変数が発生する。このような参加者内計画における剰余変数の統制方法としては、該当する個人差変数を事前に調べておき、その変数が同程度のペアを各条件に割り当てる方法がある。
5. 実験的研究では、次の三つの原則に基づいて因果関係を見極めようとしている。一つ目は時間的順序であり、原因が結果に先行していることである。二つ目は共変関係であり、原因と結果が関連していることである。三つ目は第三の変数のコントロールであり、他の因果的説明が排除されることである。

【No. 20】 尺度水準に関する記述A～Dのうち、妥当なもののみを全て挙げているのはどれか。

- A. 高い水準の尺度で定義された測定値は、それより低い水準の尺度上の値に変換することが可能である。また、高い水準の尺度であれば、それより低い水準で使う代表値や散布度の計算も可能である。
- B. 間隔尺度は、0の値が絶対的な原点であり、何もないことを意味しているほか、測定値間の倍数関係を扱うことができるという特徴をもっている。間隔尺度の例としては、身長、体重などが当てはまる。
- C. 比例尺度(比率尺度)は、割り当てられている値が測定値間の大小関係を表すものの、値の間隔が等間隔である必要はないという特徴をもっている。比例尺度(比率尺度)の例としては、成績の順位などが当てはまる。
- D. 順序尺度は、割り当てられている値が等間隔の順番を表すものであるものの、0の値が絶対的な原点を意味しないという特徴をもっている。順序尺度の例としては、摂氏温度、西暦などが当てはまる。

- 1. A
- 2. B
- 3. A、D
- 4. B、C
- 5. C、D

No. 21～No. 60

(矯正心理専門職区分)

No. 21～No. 60は**選択問題**です。これらの問題のうちの任意の20題を解答してください。

なお、20題を超えて解答しても、超えた分については採点されません。

解答は、問題番号に該当する答案用紙の番号欄に記入してください。

(法務教官区分、保護観察官区分)

No. 21～No. 60は**必須問題**です。これらの問題について、**全てを解答**してください。

解答は、問題番号に該当する答案用紙の番号欄に記入してください。

【No. 21】 次は、視覚に関する記述であるが、A～Eに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

網膜には、光受容器として桿体と錐体という2種類の視細胞が存在している。2種類の視細胞は異なる役割を果たしていると考えられており、これは **A** と呼ばれる。桿体は暗所での知覚を受け持つ細胞で、網膜の **B** に多く分布している。一方、錐体は明所での知覚を受け持つ細胞で、網膜の **C** に密集している。

暗い部屋に突然入ると最初は何も見えないが、徐々に見えるようになってくる過程を暗順応と呼ぶ。図は暗順応曲線と呼ばれ、感知できる光の閾値を時間経過に対して示したものである。

D は、暗順応を始めてからすぐに最高の感度に達する一方、**E** は、じっくりと時間をかけて最高の感度に達する。

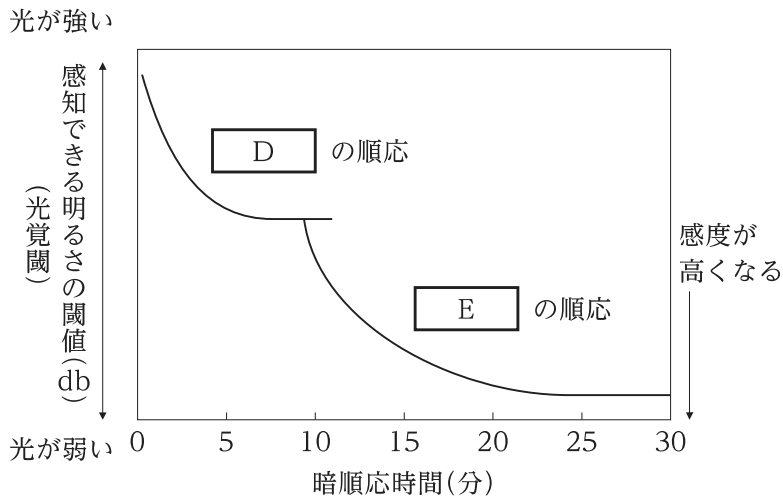


図 暗順応曲線

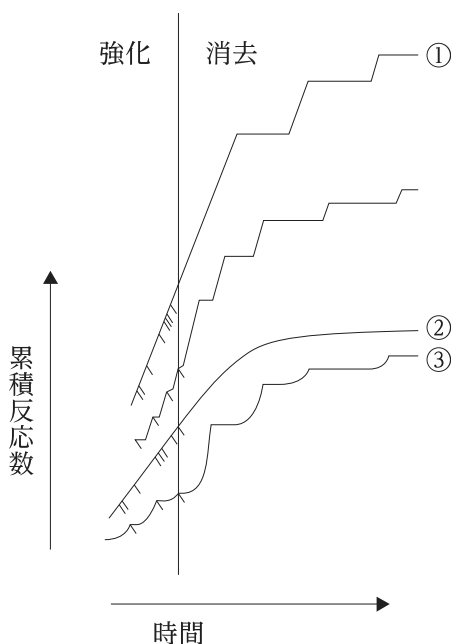
	A	B	C	D	E
1. 二重作用説		中心部	周辺部	桿体	錐体
2. 二重作用説		周辺部	中心部	錐体	桿体
3. 二重作用説		周辺部	中心部	桿体	錐体
4. 段階説		中心部	周辺部	錐体	桿体
5. 段階説		周辺部	中心部	桿体	錐体

【No. 22】 次は、オペラント条件づけの強化スケジュールに関する記述であるが、A～Dに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

魚釣りに行っても、釣りざおを下ろしてすぐに魚が釣れるわけではないし、忙しい相手への電話は、一度でつながることもあれば、何度かけ直してもつながらないこともある。我々の日常生活におけるオペラント条件づけでは、ラットの実験環境内における、ボタンを押せば必ず餌が出る機械のように、反応が自発されるたびに必ず強化を受けることはまれである。魚釣りや忙しい相手への電話のように、反応が時々しか強化されない場合は、「部分強化」と呼ばれる。

魚釣りのような部分強化の場合でも、長い目で見ると強化(魚が釣れること)の有無にはおよその規則や確率がある。どのようなタイミングの反応を強化するかという環境側の規則を、「強化スケジュール」と呼ぶ。強化スケジュールは、その行動の反応率に対して強力な統制力をもち、どのような強化スケジュールで行動が維持されているかによって、その行動の強化時や消去時(強化を中止すること)の反応パターンが変わってくる。

図は、4種の基本的な強化スケジュール【変動比率、変動間隔、固定比率、固定間隔】の典型的な反応パターンと消去における反応パターンの累積反応記録を示している。



※注 1

図中の斜め下向きの短い線(\)は、反応に強化が与えられた時点を示す。縦線より右側の時点では、反応の消去(強化を与えない)がなされている。

※注 2

横軸は時間の経過、縦軸は累積反応数である。累積反応記録の線の勾配が急であるほど反応率が高く(単位時間当たりの反応数が多く)、累積反応記録の線が横軸と平行であれば反応が生じていないことを示す。

図 強化のスケジュールと累積反応記録(「Reynolds, G. S., 1975」を基に作成)

図中の①が示すのは、A スケジュールである。強化までに要求される反応数が、毎回不規則に変化する。仮に、平均して 50 回の反応の後に 1 回の強化が得られるとしても、反応する側は、いつ強化されるか分からないため、高い反応率が持続する。消去に移っても、なかなか反応がなくなり、消去抵抗が高い。ギャンブルは、このスケジュールで強化されている行動といえる。

図中の②では、前の強化から、ある時間が経過した後の最初の反応が強化されるが、その時間間隔が強化ごとに不規則に変化する。いつ強化が来るか分からないが、むやみに反応しても強化は得られないため、強化時の反応パターンは①に似ているが、反応率は①ほど高くない。消去期になると反応率が徐々に下がり、やがて反応がなくなる。日常生活の例として、以下の【行動の例示】中のB が挙げられる。

図中の③は、C スケジュールと呼ばれ、次の強化が近づくほど反応率が高くなる独特の形をしており、その形は、ホタテの貝殻に似ていることからスキヤロップと呼ばれる。消去に入るとスキヤロップの形状が残ったまま、反応休止の時期が増えていく。日常生活の例として、【行動の例示】中のD が挙げられる。

【行動の例示】

「出来高払い」：一定の成果ごとに報酬がもらえる出来高払いの仕事

「時計を見る行動」：一定時間ごとに休憩できる退屈な作業中に時計を見る行動

「電話行動」：なかなか電話が繋がらない忙しい相手に電話をかける行動

	A	B	C	D
1. 変動比率		電話行動	固定間隔	時計を見る行動
2. 変動比率		電話行動	固定比率	出来高払い
3. 変動比率		出来高払い	変動間隔	時計を見る行動
4. 変動間隔		電話行動	固定比率	出来高払い
5. 変動間隔		出来高払い	固定間隔	電話行動

【No. 23】 動機づけに関する記述ア～エのうち、妥当なもののみを全て挙げているのはどれか。

ア. R. M. ヤーキーズと J. D. ドッドソンは、動物の学習実験から、覚醒レベルと学習成績との間にはU字型の関係があることを見いだした。また、学習成績と動機づけの間にも同様の関係があり、学習に最適な動機づけの水準は課題の困難度によっても異なり、課題が困難になるほど、最適な動機づけの水準は相対的に高くなる。

イ. A. H. マズローによれば、欲求は階層構造を成しており、基本的な生理的欲求から、安全と安定、所属と愛情、承認と自尊心、自己実現の欲求へと、より複雑な高次の心理的動機づけに至るとされる。ただし、それら高次の欲求は、より低次の欲求が十分に満足されて初めて、その次の階層の欲求が行動の動機づけとして意味をもつとされる。また、自己実現及び承認と自尊心の欲求は成長欲求と呼ばれ、それ以外の欲求は欠乏欲求と呼ばれる。

ウ. E. L. デシと R. M. ライアンは、自律性の程度により、外発的動機づけの中に外的調整、取り入れ的調整、同一化的調整、統合的調整の四つの異なる自己調整の段階があると想定した。そのうち、外的調整は、外部から与えられる報酬や罰に動機づけられている段階であり、統合的調整は、行動することの価値が十分に内在化されており、自分の中の他の価値や欲求と調和している段階である。

エ. W. B. キャノンは、カフェテリア実験を行い、ホメオスタシスの概念を提唱した。ホメオスタシスとは、生活体の内部環境を一定に維持しようとするメカニズムのことである。飢えや渇きのような生理的欲求は、多くの場合、ホメオスタシスの機制が働いている。性の欲求もまた生理的欲求の一つであり、ホメオスタシスに基づく欲求といえる。

1. ア
2. ウ
3. ア、エ
4. イ、ウ
5. イ、エ

【No. 24】 ビッグ・ファイブモデルに関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. ビッグ・ファイブモデルとは、パーソナリティ特性の個人差を五つの次元によって説明しようとする考え方であり、H. J. アイゼンクによって提唱された。ビッグ・ファイブモデルは、個人を特性の寄せ集めとして理解し、特性の差異を量的に測定する特性論に基づくものである。ビッグ・ファイブを測定するために開発された代表的な検査として、東大式エゴグラムがある。
2. ビッグ・ファイブモデルにおける神経症傾向は、不安感、抑うつ感、怒り、恥ずかしがり、気分の波などに関連し、C. G. ユングによって初めて体系化された。また、ビッグ・ファイブモデルにおける支配性は、信頼、実直さなどに関連があり、計画的で責任感があることと関連している。
3. ビッグ・ファイブモデルにおける開放性が高い人の特徴として、創造的、想像力が豊かである、抽象的な考え方をする、好奇心が強い、芸術や美術に理解があることなどが挙げられる。反対に、開放性が低い人の特徴としては、伝統を重んじる保守的な傾向にあることなどが挙げられる。
4. ビッグ・ファイブモデルにおける外向性とは、他者に対して協調的に対応する傾向のことで、外向性の高い人の特徴として、優しい、寛大である、面倒見が良い、思いやりがある、人を信じやすい、人の気持ちを察することができるなどが挙げられる。反対に、外向性が低い人は、自己主張的で興奮や刺激を求める傾向にある。
5. ビッグ・ファイブモデルにおける誠実性が高い人の特徴として、勤勉で達成への意思や意欲が強いこと、外部に対して心が開かれており、周囲の人々や事柄を受け入れていくことが挙げられる。反対に、誠実性が低い人の特徴として、怠惰で無責任であること、引っ込み思案で、自分の主観的な捉え方や考え方に基づいて行動を決めがちであることなどが挙げられる。

【No. 25】 次は、「心の理論(theory of mind)」に関する記述であるが、A～Dに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

ただし、Bは、図中の質問文であり、Bには、㊦又は㊧のいずれかが入る。

人の心は直接見ることはできないが、例えば、給食を目の前にして友達が笑顔になっているのを見れば、「早く給食が食べたいのかな。」「今日のメニューには好きな食べ物があるのかな。」などと、目に見える行動や表情から他者の心を推し量ろうとする。Aらは、チンパンジーなどの霊長類の動物が、「あざむき」のように、他の仲間の心の状態を推測しているかのような行動を取ることに注目し、こうした他者の心の状態を類推し、理解することを「心の理論」と呼ぶことにした。

「心の理論」は、情動理解や共感性の発達と密接に関わっているとされる。「心の理論」研究の主要なテーマとして、他者が現実とは異なる認識をもっていることを理解できるかどうか評価する誤信念課題がある。その代表的なものとして、図の「サリーとアンの課題」が挙げられる。この課題では、「サリーが出掛けている間に、サリーがカゴにしまったビー玉を、アンが箱に移してしまう」という話に続いて、子どもに対して B と問う。この問いに対して、「心の理論」を獲得していると判断される子どもは、 C と答える。

誤信念課題は、3歳では正答が難しく、4歳以降に正答率が上昇することが知られており、幼児期後半に他者の意図や信念、欲求、感情などの心の状態を推測し、他者の心を理解できるようになるとされる。「サリーとアンの課題」を考案した D は、自閉症児は、定型発達児やダウン症児よりも誤信念課題の成績が極めて低いことを見だし、「自閉症児は「心の理論」に障害があるのではないか」という仮説を提唱するに至り、自閉症と「心の理論」の関連について多くの研究と議論がなされるようになった。

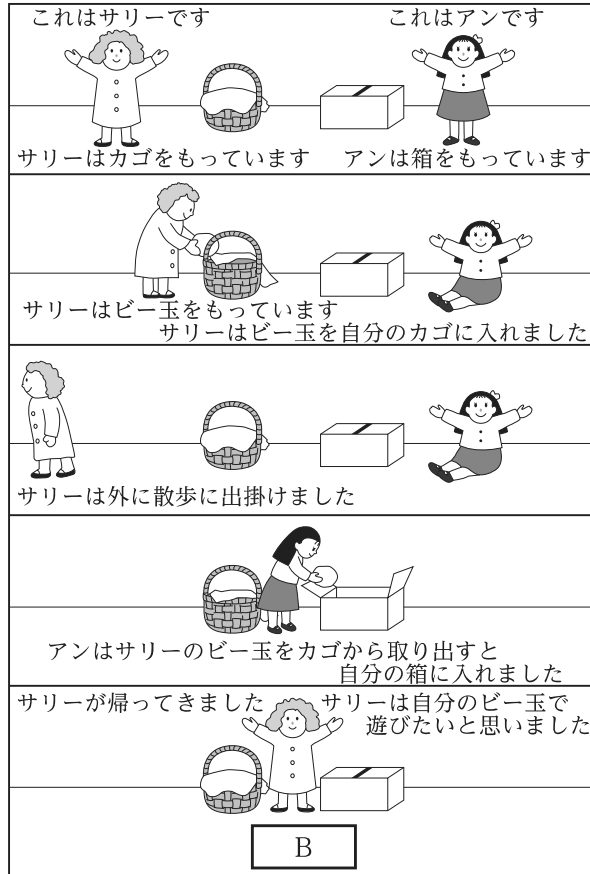


図 サリーとアンの課題

Bの候補

㊦：「あなたがアンなら、サリーにビー玉がどこに入っていると教えますか？」

㊧：「サリーがビー玉を探すのはどこですか？」

A	B	C	D
1. W. ケーラー	㊦	箱	S. バロン=コーエン
2. W. ケーラー	㊧	カゴ	M. トマセロ
3. W. ケーラー	㊦	箱	M. トマセロ
4. D. プレマック	㊦	カゴ	M. トマセロ
5. D. プレマック	㊧	カゴ	S. バロン=コーエン

【No. 26】 教育心理学の理論に関する記述ア～エのうち、妥当なもののみを全て挙げているのはどれか。

ア. R. ローゼンソールとL. ヤコブソンによる研究では、1年生から6年生までの児童に知能検査を実施し、その結果が低かった児童を抽出して、「知能検査の結果が高かった」と偽りの情報を教師に伝えた。約1年後に再検査を実施したところ、結果の低かった児童の多くは、元々知能検査の結果が高かった児童の知能検査の結果を上回っており、教師が期待をかけることで能力が高まるというピグマリオン効果が示された。この効果は、学力への関心が高くなる高学年において、その効果が特に顕著であった。

イ. J. E. ブロフィとT. L. グッドによる研究では、教師による期待が高い生徒と、期待が低い生徒の間で、教師のコミュニケーション行動に違いがみられた。期待の高い生徒に対しては、期待の低い生徒よりも、正答に対する賞賛は少ないが、誤答に対する叱責の頻度は高く、自ら考えさせるために、誤答の際の質問の繰り返しやヒントの付加は少なくなるという結果がみられた。

ウ. 自己成就予言とは、主観的な期待や思い込みであっても、その期待に基づく予言や行為が、結果として、その期待を確認する証拠(現実)を引き出してしまふ現象のことである。ある期待をもつことで、その期待に沿うように現実をゆがめて捉えたり、期待に沿った行動で相手の行動を制限したりすることで生じる。

エ. 性別によって得意不得意の教科が異なるといったステレオタイプの例がある。こうしたステレオタイプと関連する能力が問われる課題や状況に接していると感じると、人はステレオタイプを確認するような結果を出すことを懸念し、心理的負荷を感じるようになる。こうした心理的負荷はステレオタイプ脅威と呼ばれ、人が当該領域で能力を発揮するのを妨げるとされている。

1. ア
2. エ
3. ア、イ
4. イ、ウ
5. ウ、エ

【No. 27】 態度と説得に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 認知的均衡理論(cognitive balance theory)によると、ある人のある対象に対する態度は、本人(P)、対象(X)及びXに関連する他者(O)の三者の間の心情関係に依存する。三角形の三辺で表される三者のそれぞれの関係は、好意的関係はプラス、非好意的関係はマイナスで表され、マイナスの方が多ければ不均衡状態、プラスの方が多ければ均衡状態であることを示す。マイナスが多い場合は、プラスが多くなるような方向への変化が生じる。
2. 精緻化可能性モデル(elaboration likelihood model)では、態度変容に至る経路として中心ルートと周辺ルートが仮定されている。中心ルートでは、メッセージの議論に関して入念な吟味がなされ態度変化の方向が決まる。一方、周辺ルートでは、議論の本質とは関係が薄い周辺的な手がかりに基づいて短絡的に判断される。受け手のメッセージ内容を処理する能力と動機づけのいずれかが高ければ中心ルートによる態度変化が生じ、両方とも低い場合には周辺ルートによる態度変化が生じる。中心ルートよりも周辺ルートを経た方が態度は強固で安定しやすい。
3. 認知的不協和理論(cognitive dissonance theory)によると、人は二つの認知間に不一致が生じると、この状態を維持しようと動機づけられる。これを実証した実験では、退屈な課題に従事した参加者が「とても面白かった」と嘘をつく役割を与えられ、謝礼として1ドル又は20ドルを受け取る条件が設けられた。その後、参加者自身の課題に対する面白さを測定した結果、20ドル条件は1ドル条件に比べ、参加者自身の課題の面白さへの評価が高いことが示された。20ドル条件では反態度的行為に対する正当化が不十分であったと考えられる。
4. 説得過程の規定要因として、送り手の信憑^{びよう}性がある。同じ内容のメッセージの場合、送り手の信憑性が高い方が説得効果は高まる。送り手の信憑性に関する実験では、説得直後には、信憑性の高い送り手の方が低い送り手に比べて受け手を説得しやすいことが示されたが、信憑性の低い送り手でも、時間が経過すると説得効果が生じることが示された。このような現象はスリーパー効果と呼ばれており、時間の経過に伴って送り手に関する記憶が失われ、メッセージそのものの効果が現れてくるため生じると考えられている。
5. 合理的行動理論では、態度が行動に与える影響について、行動を直接規定するのは、その行動をすることへの主観的規範であり、主観的規範の強さには態度だけでなく、その行動をしようとする意図も関与すると考えられている。この理論は、態度と行動の一貫性を主張するものである。さらに、自分はその行動をとることができるのだという主観的統制感も重要な要因であることが示されている。

【No. 28】 面接法に関する記述A～Dのうち、妥当なもののみを挙げているのはどれか。

- A. カウンセリングには様々な定義があるが、一般的には、言語・非言語的なコミュニケーションを通して、個人が悩みを解決し、心理的な成長を遂げられるように専門的な立場から援助することであり、対象者は精神科領域の診断を受けている者に限られる。公認心理師が業務独占の資格となったことから、公認心理師資格を有する者でなければカウンセリングを実施することができなくなった。
- B. 構造化面接は、あらかじめ設定された仮説に基づいて、事前に質問すべき項目やその順序を定めておき、それらの手順に沿って質問を行っていくものである。一方、非構造化面接は、質問内容を定めない、若しくは自由回答法の質問や教示を行い、その面接場面で生じたコミュニケーションに従って、次の質問を決めていくものである。
- C. アドヒアランスとは、面接を実施する側が、対象者に対して内容・方法などについて正確に説明を行うとともに、対象者が参加するか否かを自由意思で決められるようにし、参加する際には同意を得ることを指す。面接によるデータの収集においては、対象者の個人情報を含む質的な情報を扱う場合が多いこと、一度参加に同意すると面接開始後は中断できないことから、特に十分な説明を行う必要がある。
- D. 調査面接法の形態として、個別面接法と集団面接法がある。集団面接法の特徴として、集団であることが個人の自由な発言に制約を加える危険性がある反面、相互に影響し合うことで会話が発展する利点もある。集団面接では、司会者やファシリテーターが目的に沿った進行を促すことにより、効率的に情報を収集することができる。

1. A、B
2. A、C
3. B、C
4. B、D
5. C、D

【No. 29】 DSM-5-TR(精神疾患の診断・統計マニュアル)における不安症群に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 全般不安症では、多数の出来事または活動についての過剰な不安と心配(予期憂慮)が、起こる日のほうが起こらない日より多い状態が、少なくとも3カ月間にわたる。全般不安症患者は、心配の頻度は高いが、制御不能であるとは感じていないことが多い。
2. 広場恐怖症では、(1)公共交通機関の利用、(2)広い場所にいること、(3)高い場所にいること、(4)列に並ぶまたは群衆の中にいること、(5)家の外で他者と過ごすことの5つの状況のうち2つについて著明な恐怖または不安がある。
3. パニック症では、繰り返される予期しないパニック発作が生じる。パニック発作では、突然、激しい恐怖または強烈な不快感の高まりが数分以内にピークに達する。パニック発作の具体的な症状としては、動悸、発汗、窒息感、現実感消失、死ぬことに対する恐怖などがある。
4. 限局性恐怖症では、クモや虫、嵐、注射針など特定の対象または状況への顕著な恐怖と不安が生じる。恐怖の対象は限定的であり、一般的に社会的、職業的、または他の重要な領域における機能の障害は引き起こさない。恐怖や不安は、典型的には2週間以上続く。
5. 分離不安症では、他者の注視を浴びる可能性のある1つ以上の社交場面に対する、著しい恐怖または不安が生じる。社交場面としては、社交的なやりとり、見られること、他者の前でなんらかの動作をすることが含まれる。恐怖や不安は、典型的には2週間以上続く。

【No. 30】 心理学で用いられる研究法に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 実験法とは、ある行動を引き起こす効果をもつと考えられる要因を特定し、その程度を変化させることで、要因の程度と、結果として生じると思われる行動の程度との間における因果関係を明らかにする方法である。全ての実験には、観測された反応を表す独立変数と、実験者によって操作された環境の要因であるダミー変数が存在する。
2. 質問紙調査法では、通常、ある程度まとまった数の質問項目を用意して、選択式など比較的簡便な方法を用いて多くの対象者から回答を求める。質問紙調査法のメリットとしては、比較的短時間で多人数に実施でき、費用も安価で簡便であるといった点が挙げられるが、デメリットとして、観察法や面接法よりも、社会的望ましさによって虚偽の回答が生じやすいといった特徴がある。
3. 観察法とは、より自然な状況下で対象を見て、その心の働きを観察する方法である。観察法における代表的な観察対象・単位の抽出法として、観察している時間を一定の時間間隔に小分けして、それぞれの時間間隔を観察単位として行動を抽出する場面見本法がある。また、記録方法として、記録対象とする行動をあらかじめリストアップしておき、その生起頻度や持続時間を記録する行動描写法がある。
4. 検査法とは、標準化された材料と手続によって、知能、能力、興味、パーソナリティなど個人の様々な心理的属性を測定する方法である。何らかの物理的刺激に対する反応や描画を評価に用いる方法を作業検査法といい、インク模様の図版を示され、見えたことを自由に回答するバウム・テストは、パーソナリティ特性を評価する検査として代表的なものである。
5. 研究においては、倫理が重視されている。研究の性格上、研究開始時点で参加者に虚偽の説明をするエディティングを行った場合には、その参加者からのデータ収集が終わった時点で、参加者に対して、その研究の内容及び真の目的について説明を行い、データ使用の同意を得るデセプションを行わなければならない。

【No. 31】 J. H. ペスタロッチに関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 貧民子弟のための学校を開設し、『隠者の夕暮』を著した。また、認識の基本要素である数・形・語に着目してこれを「直観のABC」と呼び、曖昧な直観から明晰な概念へと導く教授法を提示した。
2. 自らの無知を自覚する「無知の知」が真の知に至る出発点であると説き、人々を真の知へと導くための教育方法として、哲学的対話を重ねることによって自らの思索と反省を促すことを重視した。
3. 『人間の教育』を著し、教育は自己の内面を表現できる幼児期に始まるとして、幼児の遊びや作業を重視し、その表現活動を促進するための道具として「恩物」を考案した。また、世界で最初の幼稚園とされる「一般ドイツ幼稚園」を開設した。
4. 子供の発達水準には、自力で解決可能な水準と、大人や集団の援助・指導によって解決可能な水準があるとし、この両水準の間に横たわる「発達の最近接領域」に対する教育的働き掛けの重要性を説いた。
5. イエナ大学附属実験学校において、年齢の異なる子供たちで学級を編成した上で、時間割や科目別によらない基本活動を循環的に行う「イエナ・プラン」を実践し、子供の共同体意識を形成することを目指した。

【No. 32】 我が国の江戸期の教育に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 寺子屋(手習塾)は、近代中学校の発展の基礎を築いたとされる私設の教育機関であり、江戸期を通じて、女子は通うことができず、女性の師匠も認められなかった。ここでは、庶民の男子を対象に読・書・算の初歩が教えられた。
2. 藩校は、諸藩が主に藩士やその子弟のために設立した教育機関であり、儒学を基本とする漢学の学習や武芸の修練などが行われたほか、江戸中期以降幕末にかけては洋学や国学などを教えるものもあった。
3. 昌平坂学問所は、本居宣長が開設した私塾を基礎として発展した教育機関であり、蘭学及び医学を中心とした専門教育が行われた。ここでは、講釈を通じて専門職に求められる倫理も説かれ、その教えは後に「石門心学」として全国的に普及した。
4. 適塾は、二宮尊徳(金次郎)が現在の大阪に開設した私塾であり、旗本・御家人といった幕臣の人材を養成し、幕政を援助することが目的とされた。ここでは、専ら幕臣の子弟を対象に、幕府の正統である朱子学の教育が展開された。
5. 松下村塾は、中江藤樹が現在の山口に開設した私塾であり、封建的な身分や階級、性別の違いが重視された。ここでは、厳格に定められた礼法と規則に従い、彼の講義を塾生が受講するという一斉教授による教育が展開された。

【No. 33】 こども基本法及びこども大綱(令和5年12月閣議決定)に関する記述A～Dのうち、妥当なもののみを挙げているのはどれか。

- A. こども基本法において、「こども」とは、18歳未満の者をいうと定義されている。また、「こども施策」の基本理念として、こどもの養育については、学校を基本として行われ、校長が第一義的責任を有するとの認識の下、各校長に対して支援を行うことが掲げられている。
- B. こども基本法において、全ての都道府県及び市町村は、「こども施策」についての計画を毎年自ら策定し、国の同意を得ることが義務付けられている。また、各都道府県及び市町村は、「こども施策」の実施を推進するため、「こども政策推進会議」を設置しなければならないとされている。
- C. こども大綱は、これまで別々に作成・推進されてきた、少子化社会対策基本法、子ども・若者育成支援推進法及び子どもの貧困対策の推進に関する法律に基づく三つのこどもに関する大綱を一つに束ね、こども施策に関する基本的な方針や重要事項等を一元的に定めるものとされている。
- D. こども大綱は、全てのこども・若者が、心身の状況、置かれている環境等にかかわらず、ひとしくその権利の擁護が図られ、身体的・精神的・社会的に将来にわたって幸せな状態(ウェルビーイング)で生活を送ることができる「こどもまんなか社会」を目指すとしている。

- 1. A、B
- 2. A、C
- 3. A、D
- 4. B、C
- 5. C、D

【No. 34】 我が国のいじめに関する記述A～Dのうち、妥当なもののみを挙げているのはどれか。

- A. いじめ防止対策推進法において、「いじめ」とは、児童生徒に対して、一定の人的関係にある他の児童生徒が行う身体的又は物理的な影響を与える行為で、当該行為の対象となった児童生徒が心身の苦痛を感じているものをいう旨が定められており、直接的な行為であることを要件としていることから、インターネットを通じて行われるものは除くとされている。
- B. いじめ防止対策推進法において、学校及び学校の教職員は、その学校に在籍する児童生徒の保護者、地域住民等の関係者との連携を図りつつ、学校全体でいじめの防止や早期発見に取り組むとともに、当該学校に在籍する児童生徒がいじめを受けていると思われるときは、適切かつ迅速に対処する責務を有する旨が定められている。
- C. いじめ防止対策推進法において、公立学校は、いじめにより当該学校に在籍する児童生徒の生命、心身又は財産に重大な被害が生じた疑いなどが認められる場合、教育委員会を通じてその学校を設置する地方公共団体の長へ、そのようないじめの重大事態の発生について報告しなければならない旨が定められている。
- D. 文部科学省の調査*によると、小・中・高等学校及び特別支援学校におけるいじめの認知件数は、令和元年度以降令和5年度にかけて減少し続けており、いじめの重大事態の発生件数は、令和5年度で過去最少となった。考えられる要因に、新型コロナウイルス感染症の流行で学校生活に生じた変化が、その後の児童生徒の行動等に影響を与えたことが挙げられている。

* 「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」

1. A、B
2. A、D
3. B、C
4. B、D
5. C、D

【No. 35】 次は、我が国における義務教育の動向に関する記述であるが、A～Dに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

平成18年の教育基本法の改正により義務教育の目的が規定されたこと等を踏まえ、いわゆる「」の解消なども期して、我が国において義務教育9年間を通じた系統性・連続性に配慮した教育の取組が求められるようになり、各地域の実情に応じた小中一貫教育の実践が図られてきた。小中一貫教育に関する制度として、平成27年の学校教育法の改正により、小中一貫教育を実施することを目的とするが創設された。

また、授業の質の向上や学習内容の理解度・定着度の向上、小・中学校間の円滑な接続、多面的な児童理解、教師の負担軽減といった観点から、義務教育9年間を見通した教科担任制の在り方の検討が行われ、令和3年に報告書*が取りまとめられた。この報告書では、小学校における教科担任制を推進する必要があるとされるとともに、教科指導の専門性をもった教師によるきめ細かな指導と中学校の学びにつながる系統的な指導の充実を図る観点から、、理科、算数及び体育を優先的に対象とすべきと示された。現在、小学校の教科担任制は導入と拡充が図られている。

* 「義務教育9年間を見通した教科担任制の在り方について(報告)」(令和3年7月)

A	B	C	D
1. 小1プロブレム	中等教育学校	高学年	外国語
2. 小1プロブレム	義務教育学校	低学年	特別の教科 道徳(道徳科)
3. 中1ギャップ	中等教育学校	高学年	特別の教科 道徳(道徳科)
4. 中1ギャップ	中等教育学校	低学年	外国語
5. 中1ギャップ	義務教育学校	高学年	外国語

【No. 36】 次は、生涯学習等に関する年表であるが、A～Dに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

1965年	P. ラングランがユネスコ成人教育推進国際委員会において「 <input type="text" value="A"/> 」を提唱
1968年	R. M. ハッチンスが著書において「 <input type="text" value="B"/> 」を提唱
1972年	ユネスコ教育開発国際委員会が報告書『未来の学習』（フォール報告書）を刊行
1973年	OECD（経済協力開発機構）が「 <input type="text" value="C"/> 」を提唱
1985年	ユネスコ国際成人教育会議において「学習権宣言」を採択
1990年	我が国において生涯学習振興法*を制定
2006年	我が国において教育基本法改正により「生涯学習の理念」を規定
2011年	我が国において <input type="text" value="D"/> を制定

* 生涯学習の振興のための施策の推進体制等の整備に関する法律

	A	B	C	D
1. 生涯教育		学習社会	リカレント教育	スポーツ基本法
2. 生涯教育		リカレント教育	学習社会	図書館法
3. 学習社会		リカレント教育	生涯教育	スポーツ基本法
4. 学習社会		生涯教育	リカレント教育	図書館法
5. リカレント教育		学習社会	生涯教育	図書館法

【No. 37】 我が国の教育委員会に関する記述A～Dのうち、妥当なもののみを挙げているのはどれか。

- A. 教育委員会は、学校と地域住民等が協力し、一体となって学校運営に取り組むため、学校ごとに組織・設置される合議制の機関とされている。
- B. 教育委員の任命に当たっては、年齢、性別、職業等に著しい偏りが生じないように配慮するとともに、教育委員のうちに保護者である者が含まれるようにしなければならないとされている。
- C. 教育長は、教員免許状を有し、かつ、教育に関する職に5年以上あった者、又は教育に関する職に10年以上あった者のうちから地域住民の直接選挙によって選ばれるとされている。
- D. 総合教育会議は、地方公共団体の長と教育委員会で構成され、教育を行うための諸条件の整備や緊急の場合に講ずべき措置などについて協議や調整を行うため設けられるとされている。

- 1. A、C
- 2. A、D
- 3. B、C
- 4. B、D
- 5. C、D

【No. 38】 我が国の学習指導要領は定期的に改訂されているが、次のA～Dは、各改訂における主な狙いや特徴に関する記述である。A～Dを古いものから順に並べたものとして最も妥当なのはどれか。

- A. 完全学校週5日制の下で、「生きる力」を培うことが基本的な狙いとされ、授業時数の削減と教育内容の厳選が図られた。また、小学校中学年以上に「総合的な学習の時間」が創設され、各学校において創意工夫を生かした教育活動を行うこととされた。
- B. 従来「試案」として作られてきたが、初めて「告示」という形で公示され、教育課程の基準としての性格が明確化された。また、基礎学力の充実や科学技術教育の向上を図ることが掲げられるとともに、小・中学校に「道徳の時間」が新設された。
- C. 生涯学習の基盤を培うという観点に立ち、社会の変化に自ら対応できる心豊かな人間の育成を図ることが基本的な狙いとされた。また、小学校低学年の理科・社会を廃止し、「生活科」が新設された。
- D. 「社会に開かれた教育課程」が重視されるとともに、育成を目指す資質・能力が「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱に整理された。また、小学校において、中学年で外国語活動が、高学年で外国語科がそれぞれ導入された。

- 1. A→B→C→D
- 2. B→C→A→D
- 3. B→D→C→A
- 4. C→B→A→D
- 5. C→B→D→A

【No. 39】 学校における教育評価に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 形成的評価は、教師が、日頃の印象や勤を基に自分の中であらかじめ形成された評価基準を絶対的なものとして、児童生徒の成績を決定する評価である。教師の主観的な判断が優先されやすい性質から、認定評価とも呼ばれる。
2. 個人内評価は、他の児童生徒の成績と比べて見える長所・短所や得意・不得意を専ら自己申告により評価する縦断的個人内評価と、本人の過去の成績と比べて時間の経過における進歩の状況を捉える横断的個人内評価の二つに大別される。
3. 総括的評価は、単元終了時や学期末、学年末などに実施され、児童生徒が当初の教育目標をどの程度達成できたかを評価するものである。この評価の情報に基づいて成績の評定が行われるため、評価の客観性や信頼性が求められる。
4. 診断的評価は、教師が、本来互いに独立している複数の評価要素のうち、個人的経験や知識から自分の論理で関連があると判断したものについて、まとめて同じような評価を下すものである。指導の途中に、それまでの学習活動における理解度を効率的に確認するために用いられる。
5. 到達度評価は、児童生徒が獲得すべき内容や能力を数値化した到達目標を基準に、到達度をあらかじめ定めた配分率に沿って割り出すものである。児童生徒の集団内における相対的な位置や序列を明らかにするために用いられる。

【No. 40】 プログラム学習に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. F. ケッペルが提唱した学習指導の形態である。複数の教師がチームを組み、同一の学習者の集団を対象として、各自の専門性に立って指導過程における責任を分担し、協力し合って指導に当たる。
2. H. パーカーが考案して実践した学習指導の方法である。「自由」と「協同」の原理の下、従来の一斉授業や教室を廃止し、学習者は、興味関心に基づいて教科を選び、教科別の「実験室」において、教師と相談しながら自ら立てた学習計画に従い、個別に学習を進める。
3. J. S. ブルーナーが提唱した学習方法である。学習者が、単に結果としての知識を学び得るのではなく、そこに至るまでのプロセスに主体的に参加し、それぞれの事項についての関係や法則性といった「構造」を自ら発見していくことに主眼が置かれる。
4. B. F. スキナーのオペラント条件づけを基本原理とした学習方法である。学習内容をスモール・ステップで学習者に提示し、学習者が自分のペースで学習を進め、即時的に正解・不正解のフィードバックを受けることで、段階的な学習目標の達成が図られる。
5. E. アロンソンが提唱した学習方法である。学習者を複数の小グループに分け、それぞれのグループに異なる課題を提示し、各グループで課題が実施された後に、その学びを持ち寄り合わせることで、全体理解や更に大きな課題の解決が促される。

【No. 41】 F. P. バイステックによるケースワークの7原則に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. F. P. バイステックの7原則は、ケースワーカーの援助行動に何らかの影響や指針を与え、行動を導くものであり、ケースワーカーの行動原理といってよい。七つの原則はそれぞれが互いに独立しており、いずれか一つの原則がうまく適用できれば、援助関係全てにわたってクライアントと良好な関係を形成することができる。
2. 「個別化」とは、一人一人のクライアントがそれぞれに異なる独特な性質をもっていると認め、それを理解することである。また、クライアント一人一人がより良く適応できるよう援助する際には、それぞれのクライアントに合った援助の原則と方法を適切に使い分けることである。
3. 「意図的な感情の表出」とは、ケースワーカーが自分の感情を自覚して吟味することである。つまり、ケースワーカーが自らの感情に対する感受性を持ち、自らの感情を理解し、そして、自らの感情を常に言葉や態度によって表出することである。
4. 「非審判的態度」とは、ケースワーカーが、クライアントの人間としての尊厳と価値を尊重しながら、クライアントの健康さと弱さ、好感をもてる態度ともてない態度、肯定的感情と否定的感情、逸脱した態度や行動を、無条件で許容又は容認することである。
5. 「秘密保持」とは、クライアントが専門的援助関係の中で打ち明ける秘密の情報を記録化せず、第三者にも伝えないことである。いかなる場合でも、クライアントの秘密は同じ社会福祉機関や他機関の他の専門家にも共有してはならない。

【No. 42】 我が国の社会保険等に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 我が国では、全ての国民が医療保険制度に強制加入する国民皆保険の仕組みを採っている。そのため全ての国民は、職業や年齢、生活保護受給の有無にかかわらず、国民健康保険の被保険者となる。
2. 労働者災害補償保険法の適用を受ける労働者には、アルバイトやパートタイマー等の非正規雇用労働者のほか、国家公務員及び地方公務員も含まれるが、日雇労働者は含まれない。
3. 国民年金のうち老齢基礎年金の受給資格期間は、平成29年に、10年から5年に短縮された。なお、学生納付特例制度の承認を受けた期間は、受給資格期間に含まれない。
4. 雇用保険法における「失業」とは、被保険者が離職し、労働の意思及び能力を有するにもかかわらず、職業に就くことができない状態にあることをいう。
5. 我が国では、介護保険は社会保険として制度化されておらず、民間保険会社等が販売する民間保険のみである。そのため、介護保険への加入は任意とされている。

【No. 43】 障害者差別解消法^{*1}、同法に基づく基本方針^{*2}及び合理的配慮の提供等事例集^{*3}に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 行政機関等及び事業者は、障害者から現に社会的障壁の除去を必要としている旨の意思の表明があった場合において、その実施に伴う負担の軽重にかかわらず、障害者の権利利益を侵害することとならないよう、当該障害者の性別、年齢及び障害の状態に応じて、社会的障壁の除去の実施について必要かつ合理的な配慮をするように努めなければならない。
2. 障害者差別解消法における合理的配慮は、行政機関等及び事業者の事務・事業の目的・内容・機能に照らし、必要とされる範囲で本来の業務に付随するものに限られること、障害者でない者との比較において同等の機会の提供を受けるためのものであること、事務・事業の目的・内容・機能の本質的な変更には及ばないことに留意する必要がある。
3. 令和3年の障害者差別解消法改正によって、令和6年4月1日から事業者による障害者への不当な差別的取扱いの禁止が新たに定められた。事業者が、障害を理由として障害者でない者と不当な差別的取扱いをすることにより、障害者の権利利益を侵害した場合には、その事業者に罰金が科されることとなった。
4. 聴覚障害者が、遊戯施設において、緊急放送が聞こえなかった場合に安全が確保できないとの理由でアトラクションの利用を拒否された事例では、同アトラクションが、障害があっても規定を満たしていれば利用できるものであった場合、担当者が聴覚障害者に対する漠然とした安全性への不安から利用拒否をしたことは不当な差別的取扱いには該当しないと考えられる。
5. 飲食店が、障害者から食事介助を求められた場合に、食事介助を事業の一環として行っていないことを理由に介助を断った事例や、限定商品の抽選販売を行っている販売者が、抽選申込みの手続を行うことが難しいとして当該商品をあらかじめ別途確保しておくよう障害者から求められた場合に、対応を断った事例は、合理的配慮の提供義務違反に該当すると考えられる。

*1 障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律

*2 障害を理由とする差別の解消の推進に関する基本方針

*3 合理的配慮の提供等事例集(令和5年4月 内閣府障害者施策担当)

【No. 44】 我が国における児童虐待に関する記述A～Dのうち、妥当なもののみを挙げているのはどれか。

- A. 児童虐待の防止等に関する法律において、児童虐待は、児童の身体に外傷が生じ、又は生じるおそれのある暴行を加える「身体的虐待」、児童の財産を不当に処分することその他児童から不当に財産上の利益を得る「経済的虐待」、児童の心身の正常な発達を妨げるような著しい減食又は長時間の放置その他の保護者としての監護を著しく怠る「心理的虐待」の三つに分類される。
- B. 児童相談所における児童虐待相談対応件数は、平成2年度から令和4年度に至るまで増加し続けている。令和4年度の児童相談所における児童虐待相談の内容別件数は、心理的虐待が最も多く、次いで身体的虐待が多い。また、同年度の児童虐待相談における主な虐待者の割合では、実母と実父を合わせると全体の約9割となっている。
- C. 児童虐待の防止等に関する法律において、児童虐待を受けたと思われる児童を発見した者は、速やかに、これを市町村、都道府県の設置する福祉事務所又は児童相談所に通告しなければならない旨が規定されている。こども家庭庁は、必ずしも虐待の事実が明らかでなくても、主観的に児童の安全・安心が疑われる場合であれば通告義務が生じるとしている。
- D. 児童虐待の発生予防にも資する子育て支援事業の例として、平成20年のこども基本法改正で法定化された養育支援訪問事業がある。この事業では、養育支援が特に必要であると判断された家庭にケアマネジャーが訪問し、養育に関する指導や助言等を行う。また、児童虐待防止の啓発活動の例としては、市民運動の赤い羽根共同募金運動が挙げられる。

- 1. A、B
- 2. A、C
- 3. B、C
- 4. B、D
- 5. C、D

【No. 45】 次は、我が国の高齢者向け住まいに関する記述であるが、A～Dに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

A : 老人福祉法に規定された施設で、65歳以上の者であって、環境上の理由及び経済的理由により居宅において養護を受けることが困難なものを入所させ、養護するとともに、その者が自立した日常生活を営み、社会的活動に参加するために必要な指導及び訓練その他の援助を行うことを目的とする。

B : 介護保険法に規定された施設で、要介護者に対し、施設サービス計画に基づいて、看護、医学的管理の下における介護及び機能訓練その他必要な医療並びに日常生活上の世話をを行うことを目的とする。

C : 高齢者の居住の安定確保に関する法律に規定されており、高齢者単身・夫婦世帯が増加していく中で、高齢者の居住の安定を確保することを目的として創設された。その登録には、定められた規模・設備と専門家による見守りサービスを備え、契約に関する基準を満たす必要がある。

D : 老人福祉法に規定された施設で、65歳以上の者であって、身体上又は精神上著しい障害があるために常時の介護を必要とし、かつ、居宅においてこれを受けることが困難なもの等を入所させ、養護することを目的とする。

	A	B	C	D
1. 養護老人ホーム		介護老人保健施設	サービス付き 高齢者向け住宅	特別養護老人ホーム
2. 養護老人ホーム		救護施設	日常生活支援 住居施設	介護老人保健施設
3. 日常生活支援 住居施設		特別養護老人ホーム	サービス付き 高齢者向け住宅	介護老人保健施設
4. 日常生活支援 住居施設		介護老人保健施設	養護老人ホーム	救護施設
5. 特別養護老人ホーム		救護施設	養護老人ホーム	サービス付き 高齢者向け住宅

【No. 46】 我が国の障害者手帳に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 身体障害者手帳は、障害者基本法に規定されている。手帳に記載される障害の程度は、重度のものをA、それ以外をBと区分しているが、自治体によってはさらに細かく区分されている。手帳の有効期間は2年であり、2年ごとに都道府県知事の認定を受けなければならない。
2. 精神障害者保健福祉手帳は、知的障害者福祉法に規定されている。手帳に記載される障害等級は、障害の程度が重度のものから順に1級から7級まで区分されている。手帳は原則として2年の有期認定となっており、児童相談所又は知的障害者更生相談所において2年ごとに判定を受ける。
3. 療育手帳は、発達障害者支援法に規定されている。手帳に記載される障害等級は、障害の程度が重度のものから順に1級から3級まで区分されている。原則、手帳の更新はないが、障害の状態が軽減する等の変化が予想される場合には、交付から一定期間を置いた後、再認定が実施されることがある。
4. 令和4年度における障害者手帳の所持者数は、療育手帳の所持者が最も多く400万人を上回っており、精神障害者保健福祉手帳の所持者が最も少なく100万人を下回っている。なお、平成28年度と比べた増加率では、身体障害者手帳の所持者の増加率が最も大きい。
5. 身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳、療育手帳のいずれの障害者手帳を所持している場合も障害者総合支援法*の対象となり、様々な支援策が講じられている。また、所持する障害者手帳によって自治体や事業者が独自に提供するサービスを受けられることもあり、例として、令和7年4月1日現在、身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳又は療育手帳の所持者でそれぞれ定められた障害の程度のものに対するJR各社の旅客運賃割引が挙げられる。

* 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律

【No. 47】 認知症及び我が国における認知症の人への支援に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 認知症とは、睡眠障害や食欲不振、自責の念などが出現して日常生活に支障を来す状態をいう。代表的な認知症にパーキンソン病と脊髄小脳変性症があり、どちらも多発性ラクナ梗塞などの脳血管疾患により起こるとされている。
2. 「令和5年(2023)患者調査の概況」(厚生労働省)によると、傷病分類別の推計入院患者数が最も多いのは「精神及び行動の障害」である。その内訳では「血管性及び詳細不明の認知症」が最も多く、その数は「統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害」や「気分[感情]障害(躁うつ病を含む)」の10倍以上である。
3. 認知症高齢者、知的障害者、精神障害者等のうち、判断能力が不十分な人が地域において自立した生活が送れるよう、都道府県・指定都市社会福祉協議会が実施主体となって、福祉サービスの利用援助等を行う日常生活自立支援事業が実施されている。
4. 認知症の人やその家族を可能な範囲で支援する認知症サポーターは、業務独占資格である。社会福祉士など一定の国家資格や実務経験を有する者が実務研修受講試験に合格した後、実務研修を修了し、各都道府県に登録され、認知症サポーターカードの交付を受けて活動することができる。
5. 認知症の人は判断能力が欠けているのが通常の状態であり、自らの状況や意思を伝えることができない。そこで、法務省は「認知症の人の日常生活・社会生活における意思決定支援ガイドライン」を作成し、支援者が認知症の人に代わって意思決定を行うプロセスを定めた。

【No. 48】 次は、我が国の社会福祉関係施設・機関についての記述であるが、A、B、Cに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

- A. 障害者等が地域において自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、障害者等を通わせ、創作的活動又は生産活動の機会の提供及び社会との交流の促進を図るとともに、日常生活に必要な便宜の供与を行う。
- B. 地域の高齢者の総合的な支援機関として、介護サービスをはじめとした様々なサービスが、高齢者のニーズや状態の変化に応じて切れ目なく提供されるよう、保健・福祉から相談業務、権利擁護まで幅広い対応を行う。
- C. 高齢又は障害により、矯正施設を退所した後、自立した生活を営むことが困難と認められる者に対して、保護観察所と協働して、矯正施設の退所後直ちに福祉サービス等(障害者手帳の発給、社会福祉施設への入所など)を利用できるようにするための支援を行う。

A	B	C
1. 自立更生促進センター	地域包括支援センター	地域生活定着支援センター
2. 自立更生促進センター	地域包括支援センター	日本司法支援センター
3. 自立更生促進センター	生涯学習推進センター	地域生活定着支援センター
4. 地域活動支援センター	地域包括支援センター	地域生活定着支援センター
5. 地域活動支援センター	生涯学習推進センター	日本司法支援センター

【No. 49】 我が国の更生保護を支える人々や団体に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. BBS 会は、地域の関係機関・団体の中核的存在となって更生保護の活動に関する助成や啓発などを行う民間団体である。ともだち活動と呼ばれる地域支援ネットワークを構築し、助成や研修の実施を通じて、立ち直りを支える個人や団体の活動を支援する。
2. 更生保護女性会は、厚生労働大臣から委嘱を受けて、地域で相談援助活動を行うボランティア団体である。会員は児童委員も兼ねており、その任期は3年で、地域の子供たちが元気に安心して暮らせるように、子供たちを見守り、子育ての不安や妊娠中の心配ごとなどの相談・支援等を行う。
3. 協力雇用主は、法務大臣の認可を受けて更生保護事業を営む更生保護法人によって設立・運営される。保護観察所長から就労の措置命令を受けた保護観察対象者の雇用を行い、事業主の立場から立ち直りを支えている。
4. 更生保護施設は、親族では受入れが困難な刑務所出所者等を対象として、一時的な宿泊場所を提供するために国が設置している。施設では法務教官が常駐し、直接濃密な指導監督と手厚い就労支援を行う。
5. 保護司は、犯罪や非行をした人の立ち直りを地域で支える民間ボランティアである。保護観察官と協働して保護観察に当たるほか、矯正施設に入所している者の帰住先の生活環境の調整や、犯罪予防活動を行う。

【No. 50】 次のA～Dは、「昭和30年代前半」、「昭和60年代から平成一桁代」、「平成10年代から平成20年代前半」、「平成20年代後半から令和にかけて」のいずれかの時期の我が国における生活保護の動向に関する記述であるが、A～Dを古いものから順に並べたものとして最も妥当なのはどれか。

- A. 被保護人員が大幅な増加傾向で推移する中、特に、リーマンショックに端を発した世界金融危機の後には、被保護世帯数では稼働年齢層と考えられる世帯の増加や、高齢化による高齢者世帯の増加が顕著となった。
- B. ある年の被保護人員は月平均216万5,895人と過去最高を記録したが、以降減少に転じ、7年後にはピーク時から月平均約13万人減少した。被保護世帯数では母子世帯が減少傾向を示した。
- C. ある年の被保護人員は月平均約193万人であり、年齢階級別構成割合では未成年者が半分以上を占めていた。神武景気と呼ばれる経済の好況により、その2年後には被保護人員は月平均約162万人に減少した。
- D. 基礎年金の導入などの年金制度の改正や、バブル景気とも呼ばれる長期にわたる好景気もあって、全体として被保護人員の減少傾向が続き、ある年は月平均約88万人となった。

- 1. A→D→B→C
- 2. B→C→A→D
- 3. C→D→A→B
- 4. D→A→C→B
- 5. D→C→B→A

【No. 51】 M. フーコーに関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 『自殺論』において、自殺を、個人的動機ではなく、社会的統合と社会的規制という社会的要因によって説明し、集団本位的自殺、自己本位的自殺、アノミー的自殺、宿命論的自殺に類型化した。
2. 『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』において、プロテスタンティズムの倫理に支えられた禁欲的生活態度が、逆説的にも近代資本主義を発展させる上で重要であったと論じた。
3. 『シンボリック相互作用論』において、①人は意味に基づいて行為する、②意味は社会的相互作用において形成される、③意味は人によって解釈されるとして、社会は、人々の相互行為を通じて絶えず変化する動的なものであることを強調した。
4. 『監獄の誕生』において、監獄施設である「パノプティコン(一望監視施設)」を挙げて、身体の規律訓練を通して自発的に支配に服従する主体を作り上げるという近代社会の権力の在り方を明らかにし、この権力は、学校、工場、病院などでも共通して見いだされるとした。
5. 『マクドナルド化する社会』において、ファストフード店で取り入れられている効率性、計算可能性、予測可能性などの諸原理が現代社会の様々な領域に広がっているとし、これを「マクドナルド化」と呼んだ。

【No. 52】 T. パーソンズの学説に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 人々の日常の生活や行為を演技と同様のものと捉え、行為者をパフォーマー(演技者)又はオーディエンス(観客)とみなして記述する「ドラマトルギー」という方法を用いた相互行為の分析を提唱した。
2. 近代化によって自由化と平等化が進み、個人が地域や社会階層間を移動する可能性が高まるなど、社会の様々な事象が短期的で流動的なものとなることを「リキッド・モダニティ」と表現し、そこでは人々が確固たる居場所をもつことが困難になると指摘した。
3. 「適応(Adaptation)」、「目標達成(Goal-attainment)」、「統合(Integration)」、「潜在的パターン維持(Latency)」の四つを社会システムが存続するための機能要件に挙げ、社会システムの分析における枠組みとして AGIL 図式を構想した。
4. 学びという価値を実現することと学校制度の下で教育サービスを受けることが混同され、学習や教育が学校に独占されている社会は、人々の学ぶ力を奪うことになると批判し、自立的・共同的な学びを取り戻すため、「脱学校化」を主張した。
5. 人が鏡を見てしか自分を見ることができないことと同様に、コミュニケーションにおいて、他者という鏡を通してのみ自我を知ることができるという「鏡に映った自我」の概念を提示し、自我は社会的に形成されるとした。

【No. 53】 官僚制に関する学説についての記述ア～エのうち、妥当なもののみを挙げているのはどれか。

ア. M. ヴェーバーは、自ら分類した支配の4類型のうち、伝統的支配の最も純粋な理念型として官僚制を位置付けた。

イ. M. ヴェーバーは、官僚制の特徴として、一般的な規則に基づく職務遂行、職務の専門化、文書主義、ヒエラルヒーの原則などを挙げた。

ウ. M. リプスキーは、教員、警官、ソーシャルワーカーのように、官僚機構の最前線でクライアントに対して最も身近に影響を及ぼす者を「ストリート・レベルの官僚」と呼んだ。

エ. R. K. マートンは、官僚制組織で生まれるインフォーマルな人間関係や規則が、組織に欠ける柔軟性を補い、創造的な職務遂行を可能にするという、官僚制の逆機能について論じた。

1. ア、イ
2. ア、ウ
3. ア、エ
4. イ、ウ
5. イ、エ

【No. 54】 社会学における社会構築主義(social constructionism)を代表する研究者に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. W. I. トマスとF. ズナニエツキは、『ハマータウンの野郎ども』を著し、英国の労働者階級の窮状を踏まえ、資本主義社会の成立の中で生じた階級対立や矛盾を批判した上で、資本家の善意による理想社会の構築を目指した。

2. P. L. バーガーとT. ルックマンは、『現実の社会的構成』を著し、あたかも客観的に存在しているかのように見える現実は、根源的には人間が社会的に構成したものであるとした。

3. C. レヴィ=ストロースは、『孤独な群衆』を著し、人間社会は、人々が共通してもつ無意識の「構造」や規則に従って営まれていると捉え、こうした考え方を未開社会の研究に活用すべきであるとした。

4. É. デュルケムは、『方法序説』を著し、社会は、個人の総和に還元することのできない一つの実在であるとした。

5. A. スミスは、『市民政府二論』を著し、人々の自由意思に基づき、個人が相互に締結する契約に基づいて社会や国家は成立しているとした。

【No. 55】 逸脱に関する学説についての記述として最も妥当なのはどれか。

1. C. ロンブローゾは、『犯罪人論』を著し、多くの人の身体を計測して得られたデータに基づき、犯罪者には生まれつき特有の身体的特徴があるという生来性犯罪人説を提唱した。
2. H. S. ベッカーは、ホワイトカラー層が私生活で行う犯罪を研究対象とし、犯罪は人格や素質ではなく、学習の結果であるという分化的接触理論を提唱した。
3. E. H. サザランドは、シカゴ市の犯罪少年や成人犯罪者の地域的分布について分析し、都市の中心から遠ざかるにつれて、犯罪の発生率が増加することを明らかにした。
4. É. デュルケムは、他者や社会から好ましいとみなされる属性を「スティグマ」と呼び、スティグマは、それをもつ者にとって、逸脱を抑止する力として作用すると主張した。
5. P. コンラッドとJ. W. シュナイダーは、『アウトサイダーズ』を著し、狂気、アルコールの連続使用、子供の落ち着きのなさといった逸脱行動について、病として全て医療の対象とすべきであると論じた。

【No. 56】 都市に関する記述A～Dのうち、妥当なもののみを挙げているのはどれか。

- A. モータリゼーションは、我が国では1960年代頃から進んだとされ、道路交通網の発達とともに進展し、郊外に商業施設等を集積させ、人々のライフスタイルを自動車の利用を前提としたものに変容させたとされる。
- B. 我が国では、高度経済成長期の集団就職により、主に大学を出た若者が労働力として農村から都市部に多数流入し、一時的に農村の過疎化と都市圏の過密化が生じたが、その多くは結婚を機に農村に戻り、令和2年現在、都市人口*と農村人口*はほぼ同数となっている。
- C. 都市の急速な発展により、都市から周辺部に向けて、住宅や工場などが虫食いのように無秩序に広がることをスプロール現象と呼び、道路体系の混乱や公共施設の整備の立ち後れなどの問題が生じるとされる。
- D. 都心の地価の低下や生活環境の悪化などを原因として、工場などの施設が分散し、郊外の人口や施設が増加する一方で、都市の居住人口が減少し都市が空洞化することを、キャリーオーバー効果と呼ぶ。

* 国勢調査における人口集中地区の人口を「都市人口」、人口集中地区以外の人口を「農村人口」とする。

- 1. A、B
- 2. A、C
- 3. A、D
- 4. B、C
- 5. B、D

【No. 57】 次は、文化に関する記述であるが、A、B、Cに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

- R. ベネディクトは、『 A 』において、欧米の「罪の文化」が内面に確固たる行動基準をもつものに対し、日本の「恥の文化」は他者からの評価やまなざしの中に行動基準を見いだすと論じた。
- W. F. オグバーンは、20 世紀の産業社会において、物質文化の変化は非物質文化の変化より速く進展し、文化全体のバランスを損なう場合もあるという B を提唱した。
- P. ブルデューは、特定の環境に固有のものの方や振る舞い方などを持続的に生み出していく性向という意味で、「 C 」の概念を重用し、これを、社会構造と個人の行為との関係を分析するためのものと位置付けた。

	A	B	C
1. 菊と刀		文化遅滞理論	ハビトゥス
2. 菊と刀		文化相対主義	プラティーク
3. 菊と刀		文化相対主義	ハビトゥス
4. 罪と罰		文化遅滞理論	プラティーク
5. 罪と罰		文化相対主義	プラティーク

【No. 58】 我が国における犯罪や非行の現状に関する記述として最も妥当なのはどれか。

なお、データは『令和5年版 犯罪白書』による。

1. 人が被害者となった刑法犯のうち、殺人について検挙件数の推移をみると、平成16年から平成28年まで横ばいで推移し、その後は増加し続けている。また、令和4年における殺人の検挙件数について被害者と被疑者との関係別にみると、「面識なし」が最も多く、これに続く「親族」の2倍を超えた。
2. 少年による刑法犯の検挙人員の推移をみると、平成16年以降増加し続け、令和4年では20万人に達した。また、少年院入院者の人員の推移をみると、平成12年以降増加し続けており、令和4年で過去最多となった。
3. 暴走族の少年の構成員数は、平成15年から令和元年まで横ばいで推移した後増加に転じ、令和4年では、令和元年の約2倍となった。また、暴走族のグループ数は、平成15年から令和4年まで増加し続けており、令和4年では平成15年の約5倍となった。
4. 令和3年の少年院在院者に対する調査^{*1}において、「家族としたことがある経験^{*2}」のうち該当する項目について、「学校の行事に家族が来る」と回答した比率は1.7%であったのに対し、「どれもしたことがない」と回答した比率は89.0%に上った。
5. 令和4年に保護観察が終了した保護観察処分少年の再処分率^{*3}について、保護観察終了時の就学・就労状況別にみると、「学生・生徒」、「有職」、「無職」のうち、「無職」が最も高い比率であった。

*1 法務総合研究所が少年院在院者に対して行った、生育環境の実態に関する特別調査

*2 「学校の行事に家族が来る」、「動物園や水族館に行く」、「テーマパークや遊園地に行く」、「祖父母や親戚の家に遊びに行く」、「映画や演劇を観に行く」、「泊まりで家族旅行に行く」、「小さいころに本や絵本を読んでもらう」、「地域の行事に参加する」、「パソコンやインターネットで調べものをする」、「図書館に行く」、「どれもしたことがない」の別(重複計上)

*3 交通短期保護観察及び更生指導の対象者を除く保護観察終了人員のうち、保護観察期間中に再非行・再犯により新たな保護処分又は刑事処分を受けた者の人員の占める比率

【No. 59】 ジェンダーに関する記述A～Dのうち、妥当なもののみを挙げているのはどれか。

- A. セクシュアル・ハラスメント(セクハラ)とは、職場や学校などの継続的な関係性にある者の間で行われる性的な内容を伴う嫌がらせやいじめのことであり、女性だけでなく男性も被害者になり得る。また、同性に対する性的な言動もセクハラになり得る。
- B. パートナーシップ制度とは、同性カップル等が社会生活上のパートナーであることを公的に認定するものである。我が国では、理解増進法^{*1}において、同制度の導入が地方公共団体の努力義務として規定されているが、令和6年12月現在、いまだ導入実績はない。
- C. 令和4年度に内閣府が行った「男女共同参画社会に関する世論調査」によると、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、男女共に、「賛成」^{*2}とする者の割合が「反対」^{*3}とする者の割合を上回っている。
- D. 2024年6月に世界経済フォーラムが発表した報告書によると、我が国のジェンダー・ギャップ指数^{*4}は世界146か国中118位であった。前年より改善されたものの、G7(主要7か国)の中で最下位であり、中国や韓国よりも低かった。

*1 性的指向及びジェンダーアイデンティティの多様性に関する国民の理解の増進に関する法律

*2 「賛成」の割合と「どちらかといえば賛成」の割合の合計

*3 「反対」の割合と「どちらかといえば反対」の割合の合計

*4 経済、教育、健康、政治の四つの分野のデータを基に算出される、各国における男女格差を測る指標

- 1. A、B
- 2. A、C
- 3. A、D
- 4. B、C
- 5. C、D

【No. 60】 次は、社会調査の結果を解釈する際に起こり得る誤り等に関する記述であるが、A、B、Cに関連の深い用語の組合せとして最も妥当なのはどれか。

- A. ある統計学者が、「コウノトリの数が多い地域ほど、子供の出生率が高い」という分析結果を発表した。しかし、別の統計学者が再分析したところ、コウノトリの数と子供の出生率のそれぞれに、その地域が農村部であるということが影響を及ぼしているに過ぎず、この影響を取り除けば、コウノトリの数と子供の出生率に有意な関連は認められなかった。
- B. ある父親が、あるプロスポーツの選手 250 人の平均年俵を調べたところ、約 3,000 万円であり、子供の将来を考えてそのスポーツを習わせ始めた。しかし、そのプロスポーツ選手の年俵のデータを改めて見ると、中央値は 500 万円であり、平均値は、ごく少数の選手がもらっている非常に高額な年俵に引っ張られたものであった。
- C. あるジャーナリストが、ある大都市圏の繁華街において、午後 9 時から午前 0 時の間に、16～25 歳の若者 30 人に違法薬物の使用経験について聞き取り調査を行ったところ、12 人が「経験あり」と回答した。後日、そのジャーナリストは、「若者の 4 割が薬物使用経験あり！」とするインターネット記事を配信した。

	A	B	C
1. 参与観察	偏差値	サンプリング	
2. 参与観察	偏差値	リフレクティング	
3. 参与観察	外れ値	サンプリング	
4. 疑似相関	偏差値	リフレクティング	
5. 疑似相関	外れ値	サンプリング	

<出典>

・No.17

高橋三郎、大野裕、染矢俊幸、神庭重信、尾崎紀夫、三村將、村井俊哉、中尾智博、「DSM-5-TR 精神疾患の診断・統計マニュアル」、医学書院

・No.21

三好智子、「図 暗順応曲線(知覚・認知心理学:「心」の仕組みの基礎を理解する (公認心理師の基本を学ぶテキスト7)所収)」、ミネルヴァ書房

・No.22

Based on A primer of operant conditioning, Rev. ed., 1975. Published by Scott Foresman and Company.

・No.25

Used with permission of John Wiley & Sons Limited, from Autism: Explaining the Enigma, Uta Frith, © 1989, 2003; permission conveyed through Copyright Clearance Center, Inc.

ウタ・フリス／著 富田真紀、清水康夫、鈴木玲子／訳、「図 サリーとアンの課題(『新訂 自閉症の謎を解き明かす』所収)」、東京書籍

・No.29

高橋三郎、大野裕、染矢俊幸、神庭重信、尾崎紀夫、三村將、村井俊哉、中尾智博、「DSM-5-TR 精神疾患の診断・統計マニュアル」、医学書院

U2-2025 專門多肢

正答番号表

No	正答	No	正答	No	正答
1	1	21	2	41	2
2	4	22	1	42	4
3	2	23	2	43	2
4	3	24	3	44	3
5	3	25	5	45	1
6	5	26	5	46	5
7	1	27	4	47	3
8	3	28	4	48	4
9	1	29	3	49	5
10	4	30	2	50	3
11	5	31	1	51	4
12	4	32	2	52	3
13	5	33	5	53	4
14	2	34	3	54	2
15	3	35	5	55	1
16	2	36	1	56	2
17	4	37	4	57	1
18	2	38	2	58	5
19	5	39	3	59	3
20	1	40	4	60	5